戰鬪雜誌

進め

第三年第七號
七月號

—本號一瞥—

支那動亂の一斷面……虎之門小助
新社會の到來……鈴木厚
政界より見たる獨逸……稲垣守克
どんづまりの人間……山川亮
人間的ならざるべからず……小川未明

社會時評

支那紡績の暴動化に就て……王子言
總同盟分裂批判……苔野一進
戰術が舊式だ……赤松克麿
共産主義者と改良主義者……齋藤健一
仕事部屋から……江馬修
アメリカ奇談(二)……前田河廣一郎
無産者の法律問答……布施辰治
近世社會主義史【九】……春田正
◇入營する靑年に與ふ……福田狂二

世界無産階級 七月の歴史

一日（一八七六年）ロシアの無政府主義者バクーニン死す（六十三歳）

一日（大正十三）排日法案アメリカに於て實施さる。

三日（一九二一）赤色勞働組合インターナショナル第一回大會モスクワに開催さる。

三日（大正十三）大阪市電業員同盟罷工を開始す。

四日（一七七六）北アメリカ合衆國獨立宣言を布告す。

八日（一九一九）イタリア各都市に暴動起りソヴイエツト組織さる。

十四日（一七八九）パリーの暴民バスチユール牢獄を破壞す。

十四日（一八八九）第二インタナショナル、パリに創立さる。

十六日（一九一七）露都の勞働者蜂起ケレンスキー政府に鎭壓さる

廿七日（一八三〇）パリーに七月革命勃發す。

廿八日（一九一四）オーストリア、セルビヤに宣戰布告す、歐洲大戰始る。

廿九日（一九一四）第二インターナショナル、ブルッセルに臨時大會を開き『全世界の勞働者の絶對的平和』なる宣言を發表す。

卅一日（一九一四）平和的社會主義者ヂヤン、ジョーレス、パリーに於て愛國主義者のために暗殺さる

社告

本社移轉

都合に依り去月三十日左記に移轉致しました

東京市神田區猿樂町二丁目一番地

王子言氏青島に赴く

青島に於ける紡績罷業、暴動化せりの報を受くるや、本社北京第一支局王子言氏は、其の眞相並に情況を實地踏査のため去る五月二日北京より青島に向け急行した。ために本部よりは、青島罷業本部に向け王子言氏を介し左の電文を發信したが不幸、遞信局の都合に依り、彼地に到達し得なかつた事を悲む。

『ケツソクニヨルサイゴノシヨウリノヨロコビヲゼンセカイノムサンカイキウニワカテヨ』

尚王子言氏より青島に於ける罷業に關して詳細の通信あり、本月の本紙に發表しておいた。讀者の精讀を希ふ。

會計規約

會計係では事務の都合上左の如く規定を設けてありますから左樣御承知下さい。

一、雜誌に關する問合せ又は注文等は必ず會計係宛にする事

二、住所氏名ははつきりとわかり易く書く事

三、見本希望の向は切手十錢を封入して申込んで下さい

四、誌代は成可く六ケ月分以上前納する事

五、集金郵便代金引換郵便等にての送本はおことわりします

六、誌代切れ或は誌代前納なき場合は一切送本せざる事

七、誌代拂込は出來得る限り振替を利用し、振替の叶はざる場合は爲替又は切手を用ふ事（振替の通信欄には用件を明記する事）

八、振替にて拂込む場合は 振替口座東京六九八五三進め社本部へ尚一切の用件は東京本部宛にする事

讀者諸君へ

一 和歌山縣第一支局　林重雄氏
佐賀縣第一支局　山中宗氏

兩氏共、御自分の都合、本社の都合で此度支局をお止めになりましたから讀者諸子に公告します。

二 誌代の前金切れになつてゐる讀者が大分ありますからどうか此際是非お拂込みになつて、續けて御購讀をお願ひ致します。（係り）

地方の諸君へお願ひ

『進め』誌上へ毎號發表してゐる『全土戰報』はその寄稿者の顏ぶれがいつも決まつてゐる樣な觀のあるのは誠に遺憾な事です『全土戰報』は『進め』の最も重要な記事の一つですから是非諸君等の努力で、もつと〳〵此欄を豐富な原稿で埋めなければならないと思ひます。

それで地方の讀者諸君は舊い顏ぶれの寄稿者にばかり責任を持たせないで是非諸君自身が寄稿して頂かねばなりません。

『戰報』と云つても、必ずしも小作爭議や勞働爭議の報告と限つたものではありません。諸君の地方の官憲や青年團の情況、或は諸君の土地へやつて來て、有難い講演を聞かしてくれる何々先生とか、何々中將とかの名訓に就ての感想、批判、其他種類を選びませんから餘り長いものにわたらない程度で御寄稿ねがひます。これは舊い寄稿者は勿論のこと、地方の讀者諸君に全責任を以て是非おねがひ致します。（編輯子）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

戰闘雜誌進め

◇第三年◇ ◇第七號◇

◇勇敢なれ勇敢なれ更に勇敢なれ◇

支那動亂の一斷面

嘗て、米國が日本移民禁止の法案を實施し、我に對するに差別的待遇を以てするや、我朝野の一切が其の行爲の非人道的なるを痛罵し、義憤の感淚に奮起した事は未だに一般國民の腦裡に深く消えざる所であると思ふ。然るに今度の支那紡績罷業動亂化の前後を通觀するに、其の起因も亦等しく貪慾飽くなき帝國主義的資本家の支那に對ずる暴戾的待遇によるのである事は、我ブルジョア新聞に於てすら既に報じた所である。

日本と云はず、米と云はず、將た亦英佛を問はず支那は帝國主義列强の恣にしつゝある大亂舞場であることは世界周知の事實である。

從つて支那勞働者が自國の資本家と鬪ふ前に先づ、より多き不法なる搾取、より甚だしき、人種的蔑視を以て向ひつゝある外國資本家の鐵鎖に對抗して解放の戰ひを初めなければならない境地にある。

と同樣に支那資本家にとつても亦列强資本家は自己市場の掠奪者である。ために今度の動亂は單に支那勞働者が、生活の改善並に賃銀値上要求の問題解決として事件の終結を見るに至らず、愛國的排外運動と化し、日英帝國主義の打破、不平等條約廢止等の動運とはなつたのである。無論その近因とも見るべき導火線は南京路に於ける支那學生の示威運動に對する工部局の發砲による事も見逃す事が出來ない。

然し乍ら今度の動亂は支那國權の恢復運動としてのみ事件の目的を見る事は出來ない、それは偶々手段に於て合致したまでの事である。

既に支那には、列强掠奪場裡にあつて赤き種子が蒔かれてゐる隣邦ロシアの政策が支那四億の民衆に大なる魅力となつて腦裡深く刻まれてゐる。無論今度の動亂の主流は國權恢復黨にあるにせよ、その目的に於てはロシアの其れと等しく暗示し得る何ものかゞある。

支那と云はず、英米佛と云はず、全世界の勞働者には、その　　　　、何故なればその機能は階級的搾取の維持機關であるから。

全世界の勞働者は只階級的團結によつてのみ其最終の目的が達し得られる、全世界が得られる。

萬國の勞働者よ團結せよ！

（虎之門小助）

近世社會主義史（九）

—新インターナショナル—

—概括—結論—

春田正

第二インターナショナル

第一インターナショナルは、前にも述べた樣に一八七三年に終りを告げた。此のインターナショナルの失敗は、その時機が早過ぎたといふことが第一の原因である。即ち、社會運動或は勞働運動が國際的に鞏固になるには、先づ各國の社會運動なり勞働運動なりが力強いものになる必要がある。そして各國の無産階級が互に國際的提携の必要を自覺しなければ駄目である。やがて此の時代は來た。第二インターナショナルの出現か之である。

一八八九年、その第一回の會議とも見るべき無産階級の國際會議がパリで開かれた。次いで、ブルッセル（一八九一）、ツーリッヒ（一八九三）、ロンドン（一八九六）、パリ（一九〇〇）、アムステルダム（一九〇四）、スツットガルト（一九〇七）、コペンハーゲン（一九一〇）で會議が開かれた。

ブルッセル及ロンドンの會議では、一時新しいインターナショナルが成立するかどうか危まれた程混亂を呈したが一八九六年無政府主義者が脱退するに至つて、前より以上の勢ひを以て發達するに至つた。我々は此處でインターナショナルの發達の跡を辿る時、見逃す可からざる大事な一事がある。といふのは第一インターナショナルでは、無産階級の國際的提携といふことを各國の勞働階級に強いたかの感があつた。即ち國際的聯合から國內運動を作り出さうとする傾向があつた。所が今度は、各國で盛んになつて來た所の國內運動から國際的運動の必要を自發的に、勞働階級が意識する樣になつたのである。

此の第二インターナショナルの加盟資格として決議されたことは社會主義の根本原則を固守すると、いふことが第一であつて、加盟團體は政治運動をも（議會運動をも）認めなければならないことになつてゐる。無政府主義者の脱退した理由は此處に存する。

一九〇〇年、パリ會議で各國の國際關係を強固にするために、國際事務局をブルッセルへ置くことにした。その仕事としては、國際會議の準備、各國の社會運動の報告を受けること、及會議で採用された決定事項の記錄をすること等である。斯くて加盟團體の數は漸增し、一九一〇年コペンハーゲンの會議では、二十三ケ國の代表者八九六人が出席するに至つた。

一九一二年、インターナショナルの緊急特別會議がバーゼルで開かれ、その時切迫してゐたバルカン戰爭に、列強國の參加を防止することを申合せた。そして彼等は示威運動やその他あらゆる手段を講じてその防遏に盡した。その結果かどうかは分らないが兎に角平和が暫らく保たれた。

然しこの非戰運動も一九一四年世界戰爭の幕が切つて落されるや、慘めにその腰を折るに至つた。

一九一四年世界の戰雲の鬼氣迫るや、第二インターナショナルはブルッセルに大會を開き、非戰熱を煽ることを申合せた、而しインターナショナルの代表者達は「勞働者に祖國なし」との非國家思想を過信してゐた。その立場を色々と議論してはゐるが、事實に於て各國の勞働者は彼等の常住の地の一片の土くれに、理想や正義や理論以上の愛着を感じたのであつた。斯くて始めベルリンに於いて、非戰運動の腰をドッシリと構へた。ドイツ社會民主黨は、ロシアとの官戰に於て、先づその腰を匆々として持ち上げた。斯くて大河の流水は堤防の一穴を目掛けて迸り出た。瘦せ我慢の提携は斷たれた各國の社會黨、勞働組合は續々と觀念的な愛國主義の陶醉へと走つた。第二インターナショナルは、此の時事實上その提携が破れたのである。只此間にあつて、中立諸國の社會主義者及ロシアのボルシエビキは頑強に最後まで非戰的態度を改めなかつた。

時は經つた。散つたものはまた集まつた。一九一九年第二インターナショナルは、やがて又勢力を糾合してスイスに會合するに至つた。此の時ロシア共産黨との絶縁問題が惹起したが否決された。この第二インターナショナルの原則、綱領として採用せられたる所のものは民主的社會主義である。此は一九二〇年に起草された綱領中に明かに見られる。第二インターナショナルはその本部をアムステルダムに置く。

第三インターナショナル

第三インターナショナルの徵候は、一九〇七年から萌してゐた。而しそれが成立を見たのはロシア革命の基礎が定まつた時である。

一九一九年第二インターナショナルの復活と前後して、ロシアのモスコーで第三インターナショナルの創立大會が開かれた。此の時に參加したのは、各國の共産主義諸黨及團體の代表者であつた。

此より前、ロシア革命の指導者レーニン等は夙々、正體の曖昧なる第二インターナショナルに愛想をつかし、階級意識と革命意志の熾烈なる國際聯盟を打ち建てやうとした。

やがてその宿望の達せらるべき時は來た。ロシアの革命は彼等に、機會と確信とを與へた。各國の新興共産主義者は續々とモスコーの赤旗の下に馳せ集まつた。

斯くて、第三インターナショナルの原則として採用する所のものは、無産者獨裁を主張する革命主義であつて、民主的手段を極力排斥し、その無力と不可能を痛罵してゐる。そして此の第三インターナショナルへの加盟資格者は純然たる共産主義者のみである。モスコーに本部を置く第三インターナショナルは最近の創立にかゝる。從つてその事績は將來のことに、屬する。只第三インターナショナルが近年著るしく各國にその勢力の根を張つて來たこと丈けは事實である。

斯くて現在では、民主主義を奉ずる第二インターナショナルと、革命主義を奉ずる第三インターナショナルの二つの無産者の國際提携が存する。而してこの兩者は常にその軌を二にして、その對立的

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

態度を持續してゐる。その間、第二インターナショナル及その他の企てに依つて屢々聯絡が試みられたのであるが何れも不成功に終つてゐる。

勞働組合の種々なるインターナショナルも存するが、前二者のどちらかに加盟して居る。

概括

今まで述べて來た各國、各時代の社會主義の歷史を振り返つて見ると、その間に眞に意味深き變遷が存する。

先づ、サン・シモン、フーリエ及オーエンの時代に於いては我々は誠に鮮明な人道主義的社會主義思想家としての、理想社會建設の無規定計畫を見る。次の時代、即ちルイ・ブラン、ラッサールに到ると、彼等は國家の機能を通じて、社會主義民主主義の原理に從つて、社會主義社會の民意的建設を企てた。やがてマルクス、エンゲルスに到ると、人類社會の相對峙する二派、即ち經濟上に於けるブルジョアとプロレタリアの二階級の正體がハッキリと描き出され、階級闘爭の現實舞臺が天下に暴露された。而して、資本主義の必然的に伴つて益々勢ひを增して來る階級闘爭に依つて則ち壓迫階級（搾取階級）と被壓迫階級（被搾取階級）との決戰に依つて、社會主義社會の必然的に來るべきことを說くに至つた。

初期社會主義者は、人類に幸福と正義の息を吹き込まうとした先驅者であつた。然り、眞に偉大なる先驅者であつた。併し先驅者といふことは言葉そのものからして既に時代と孤立した、苦惱と精進の十字架を想起せしめる。人類の善意は彼等の說けるが如く、しかく容易に社會の力とはならなかつた。生存競爭場裡に於ける人類は善意と正義の觀念から餘りに遠つて居た。冷血なる資本主義の黃金時代は『善意』と『正義』におかまひなく益々その光輝を增して行つた。斯くて彼等の計畫は時代の流れの前には、一片の空想として消えて行つた。所謂後世『空想的社會主義』と呼ばれるに至つた所以である。

やがてルイ・ブラン、ラッサールを通つてマルクスに至るや、社會主義は理想、希望の地位から科學、必然の地位まで引き下げられて了つた。即ちマルクスは、丁度ダーウヰンが生物進化論を說いた樣に人類社會の進化論を說いたのである。即ち彼は科學的に、社會は必然的に、その時代の王城を社會主義に渡すべきものであることを明かにした。

斯くて、社會主義は空想の塔を出て科學の巷を驅するに至つた。

一方、社會運動も亦之に伴つて、抽象的な人類相愛等といふやうな言葉の布言から、プロレタリアの團結、搾取に對する正面的宣戰といふやうに變つて來た。そして陰謀や暗殺等といふ少數者の暴動は今では全プロレタリアの階級闘爭の演技にとつて代られた。而してこの全章を通じてみる樣に、全世界の各國を通じて、時代の進運と經濟社會の發展に伴つて、プロレタリアの陣營は益々その覇氣と戰士を加へて來た。斯くて一本の煙突が搾取の資本として此の地球上に殖えると共に、一小作人の收入が時代と共に增加ずる生活費と調和し得ざる狀態が殖えると共に、益々その魔術的資本主義の正體が顏を出し、罪惡の墓は曝かれるのである。

今やヨーロッパ諸國は、政治上に於いても經濟上に於いても、亦學問上に於いても、社會主義的勢力は動かすべからざる實力として、眞理として、最早ブルジョアの完備せる機關を以てしても如何ともすべからざる狀態を示してゐる。殊に、ロシアは勿論、ドイツ、イギリス等は最早社會主義社會實現の第一步に近づかんとさへして居るのである。

結論

『社會主義とは何ぞや』との問はもう改めて發する必要はあるまい。何が故に、世界の無產者がその團結と邁進の力に依つて不斷の努力を續けてゐるかは、此の小著を瞥見した丈けでも明かであらう。

私は之まで社會主義の歷史を眞にギゴチない樣で述へて來た。歷史は過去の敘述である。併し歷史は將來にまで續くものである。我々の歷史は趣味と興味と知識の供給所ではない。その歷史こそ、將來を語り、將來の人類社會への道を示すものである。我々は過去の全世界の無產階級の解放史を繙くに當り、我々も亦この發展し來れる無產階級の歷史を更に發展せしむる使命を帶びてゐることを忘れてはならぬ。その使命とは何ぞや言葉にすれば甚だ簡單である。資本家階級のための人生の幸福を、經濟生活を、正義を、安息を、藝術を宗敎を、學問を、戀を、全人類の手に置くことである。搾取と貧窮と一切の不幸をこの地球外へ驅逐することである。過去は現在を作つた。現在はまた將來を作る。社會主義は經驗と社會的事實によつて運動理論共に益々力と眞理を附け加へて行くであらう。

無產階級兄弟姉妹、社會主義は諸子のものだ。懶惰者と自暴者をその陣營から追拂つて諸子の如き正直と勤勉と正義を持てる無產階級の團結を以て、その來るべき社會に突進すべきである。そして全プロレタリアの陣營の勢力がブルジョアに、戰慄と、恐怖と服從を誓はせる時、その時こそ、オ、その時こそ、全プロレタリアの、全人類の太陽は輝き始めるのだ！各人は萬人の幸福の中に己れ自らの幸福を見出し、全人類は氣高き兄弟の心を以て働く。サン、シモンのこの聲は我々の背後からは聞えぬ。我々の前方に我々の光の道しるべとして、我々の理想と邁進の力として聞えて來る！（完）

附言

昨年末來可成り永い期間に凡そ毎月繼續されて來た森田正氏の『近世社會主義史』は愈々本號を以て完結する。我々は森田氏より簡單ながら極めて解り易く歐米諸國の社會主義史を學んだ我々は筆者の永い間の非常なお骨折に對し、心から感謝するものである。

尚、この『近世社會主義史』は本誌前月號に公告した通り一括してパンフレットにして近々發行する事になつてゐる（編者）

戰術が舊式だ

——併せて青野季吉君に一言寄す——

赤松克麿

一

評議會及び評議會の提灯を持つ人々が總同盟を墮落したとか改良化したとか盛んに吠え立てるが、一向其の實證を示さないのは變である。苟くも自分の黨派を革命的共產主義で總同盟を日和見主義であると斷定するからには、何人も首肯し得る確證を擧げなければならない。何等の確證を擧げないで、また擧げ得ずして、一個の團體を墮落したと吠え立てるが如きは、既に此の一事を以てして、眞面目なる社會運動者たるの資格を缺いて居る。自己の黨派だけを、眞に無產階級指導精神を有するものとし、黨派の外のものは一切日和見主義者、改良主義者に決めつけてしまふが如きは、自分の黨派だけを國利民福をはかる公黨とし、他の政黨を一切國家を誤る僞黨だとして中傷する現在のブルヂョア政黨そのまゝの戰術だ。そんな舊式な、そんなケチ臭い戰術で以て、日本の共產主義運動が發展すると思ふのは、聊か甘い考へだ。

二

評議會及び評議會の提灯を持つ人々は此の際、いやが應でも、總同盟にケチをつけなければ、評議會今後の前途繁昌に差しさわりがあると云ふ斷定から、隨分出放題な事實の捏造をやつてそれを流布させやうとして居る。一々之れを辯駁するのも大人氣ない話であるが、一つ二つとつちめて置かう。

去る五月十日の大阪聯合會定期大會に於て、現在の評議會の驍將鍋山貞親君が、總同盟幹部の墮落の證據として、『主事の西尾君を始め、赤松、松岡、加藤、塚本等の諸君が、麻布の何とかいふ料亭に、警視廳の御役人に招待されて行つて、御馳走になつた上、總同盟に對する今後の取り締りを寛大にして貰ふばかりに、山本懸藏君等六名の除名を約束してかへつたといひ、また『いつかの中央委員會で、政治部長の赤松氏が、治安維持法案の反對運動に贊成しないやうな口吻をもらした』と云つたさうである。之れについては勞働者新聞五月號に於て、『組合道德の破壞者鍋山君に云ふ』大阪聯合會本山君が、手厳しく反駁して居るが、僕も引き合ひに出されて居ることだから一言說明して置かう。

三

震災直後に於て、警視廳の連中が、總同盟の幹部に會見を申込んだことがある。鍋山君及び評議會の諸君は、此の事實を指して居るのだと思ふ。僕は、其の會見に出席しないどころか、二週間後になつて其の話を聞いたのである。而して、其の會見が、くだらない雜談で終始し、鍋山君などの考へるやうな特ダネに値しないことは勿論であつて、其の內容は、當時の總同盟主事加藤勘十君に聞いて貰へば、一番はつきりするだらう。會見の時期は震災直後であつて、未だ總同盟內紛の發生する前である。山本懸藏君等六名の除名云々の約束は、問題にならんではないか。

一般同志諸君、評議會一派が、總同盟を墮落したといふ最も有力なる根據は、こんな代物である。

更に僕が中央委員會に於て、治安維持法案反對運動に贊成しなかつたと吹聽する事實の眞相は斯うである。僕はあの中央委員會に於て、治安維持法案反對運動が議せられたとき、評議會提出の十何箇條に亘る運動方法——その中には、やれ外國の勞働團體や社會主義團體にも檄を飛ばして提携しろといつたやうな、例ひ勇壯活潑なやつが多かつたのだが——の全部をそのまゝには贊成しなかつたのである。あまり實力不相應な派手好みな運動をしても仕方がないからである。また、同法案に反對する態度に就いて、若し同法案が司法省側の意見によつて、列擧主義を取るならば（司法省側の列擧主義になるか內務省側の包括主義になるか其の法案の內容がまだわからなかつた）、之れに對して唯だ眞向から反對だといふことは不得策だから、其の反對の立場を愼重にして例へば斯くの如き法律は折角勞働運動が健實に進み行くのを却て惡化せしめるものだとか、斯くの如き法律は反動主義政策であつて徒らに無產階級を威嚇するものだとか、といつた風に、所謂識者をして首肯せしむるやうな妥當な立場を取るべきだと主張したのである。僕はひとり治安維持法に限らず、斯くの如き反動主義政策に對して純然たる無產階級の立場に於て反對するよりも、進步的な學者、評論家とも共同戰線が張れる程度の立場を取つて反對する方が、現下の日本に於て、得策だと信じて居る。僕の此の實際的な考へ方が、評議會系の中央委員其他に能く理解されないで、また理解されないことも尤もだと思ふが、『政治部長赤松氏が治安維持法案反對運動に贊成しないやうな口吻をもらした』といふ事實に轉化したのだと思ふ。治安維持法安反對運動を如何に有效にしやうかと考へた僕が治安維持法贊成者にされてしまつたのだ。此の驚くべき魔術は、評議會幹部諸君の得意とする所である。『總同盟幹部の墮落』も、此の魔術から捻り出された幻影に過ぎない。

四

總同盟の內紛問題につき、論評が盛んであるが、此の論評家の一人としての青野季吉君に特に一言する。青野君は此の問題を論ずるに際して、常に黨派的偏見を持たない人であつて、雜誌『マルクス主義』六月號には『私はその根柢を（即ち總同盟內紛の根柢）、改良主義と革命主義との差であると斷言することには、いまのところ幾分の疑問を持つて居る』と云つて、露骨に評議會の御太鼓をたたいて居る他の評論家とは、多少異つた立場を示して居る。併し其の次に行くと、少し臭味が出て來る。曰く『しかしながらいはゆる幹部派の進まうとする方向が、步一步と改良主義に成り切らうとするものであつて、改良主義政策を利用するといふが如き過去の約束が、現在に於て殆んど空文に等しくなつてゐること、刷新派の執つて進まうとする方向が『改良主

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

政策の利用」から改良主義に『成り切る』傾向を、極力抑えんとするものであつて、それは革命主義へ漸次に發展するものであることこれは認めねばならぬと思ふ」と

宮野君に御伺ひするか、所謂幹部派が改良主義に『成り切る』傾向とは一體何を指したのであるか具體的に實證を擧げて貰ひたい。最近總同盟幹部の取つた政策について、一々例證を引いて說明して貰ひた。僕は宮野君の口から、評議會幹部の魔術から造り出された、『總同盟幹部墮落の事實』を聞きたくはない。まさか宮野君ともあらうものが、そんな嘘八百をそのまま受け容れて、論據にもすまい

僕は評議會手段の『事實』にあらずして、宮野君自らの責任ある調査に基く『事實』を提示して貰ひたい。僕は宮野君の論文の中に此の『事實』が少しも擧げてないのを、遺憾とも感じ、また宮野君にも似合はない無責任なやり方だと思つた。宮君と僕とは年來の友人である。宮野君は、僕が立て籠つて居る總同盟に於て、改良主義に成り切る傾向を發見したといふのであれば、モツト具體的に證明して呉れるのが友情のあるやり方だ

五

僕が宮野君に特に此の言をなすのは、今から半年ばかり前、宮野君と會つたとき勞働運動に關する意見が、二人共全く一致して居たからである。宮野君と僕とは、盛んに關東地方評議會の進み方を非難し、併せて德田球一君を罵倒し田所輝明君を罵倒した。我國社會運動に於ける自由主義の効用性についても、二人の意見は一致した

僕は其の後多忙なため、宮野君と會ふ機會を得なかつたが、僕は宮野君の主張は依然としてかわらないものと思ひ込んで居つた。ところが、はからずもマルクス主義六月號を見ると、宮野君の主張は幾分變色して居る。勿論此の半年間に於ける『變色』については、深い根據があるのだらう。まさか宮野君は極左派から惡く思はれまいとするやうな輕佻な人氣取り策を考へる人でもあるまい。また極左派と情實にからんで主張を曲げるやう人でもあるまい。僕は宮野君が始から黨派的偏見を以て此の問題を論ずる人でないことを知るが故に、且つ徒らに突飛な急進論を唱へて小兒病者の喝采を博するやうな人でないことを知るが故に、特に此の一言を寄せて、宮野君に質したのである。(完)

革命的共産主義と
改良主義と

日本勞働總同盟
關東勞働同盟會　齋藤健一

一

『進め』誌六月號に於いて、發表さたる、革命的共産主義者として、自他共にゆるす關東地方評議會諸氏の論說を拜讀して、我等改良主義者も大いに稗益する處があつたことを感謝する次第である

二

革命的勞働運動者、河田賢治君の云はるゝ處に從へば、我日本勞働總同盟は『勞資協調主義の陣營の中に其安住所を見出し』『資本家のお先棒』であるそうである。

しかしながら、どの點が勞資協調主義であるかを說明せんためにあげられた實例(?)否實例は、遺憾ながら其役目を果して居らないのである。

第一、總同盟の中央委員會の席上に於て、一、二の幹部が、治安維持法反對の必要なしとの發言をしたとあるのであるが、凡て無産階級の運動に參加して居る程の者が、かゝる事を想像なし得るであらうか!。治安維持法に對して反對したるものは、たゞに無産階級運動に參加して居る諸團體のみならず、ブルジョア議會の代議士もルブジョアの新聞すらもそれを聲明したのである。況や日本勞働總同盟の中に在つて、ながく啓蒙し來つた人達の間に、治安維持法の消極的贊成論をなす者があつたとは、常識を持つて居るものゝ考へられることではないのである。

但し當日の中央委員會に於ては次の如き事情があつた。それは關東地方評議會より提出せる治法反對方法十ケ條の大部分が、今日の日本勞働總同盟にとつては實力不相應の空論であり、或は戰術の上から適當ならずとし遂に葬られたことである。

この事實は、聰明なる河田君が、『治法反對』そのもの反對せるが如く誤解すべき程の混雜せる問題でないのにもかゝはらず、尙『總同盟の幹部は治安維持法の反對に反對した』と宣傳せられつゝあるのは我等の奇怪にたへざる處である。

第二に、協調主義の實例として東京鐵工組合の共濟制度を數へて居るけれ共、我等の考へる處に依れば、勞働組合の中に共濟制度を實施することは、一は組合組織を緊密にし、爭議によつて起き、爭議によつて解散する泡沫的組合を永續せしめ、二は共濟的訓練によつて、一面戰鬪力を增大せしめ得るのである。もとより我等と雖も、評議會の革命的勞働運動者に敎へらるゝ迄もなく、資本家の全負擔に依る共濟制度が理想的であると思ふものであるが、今日の組合の實力を以て即然、是をなし得るかは、大なる疑問である。山川均氏の如きも『資本家の全負擔による共濟制度の促進』が日本勞働組合評議會の大會で決されたことを、激賞せられて居るが、實行を考慮に入れずして、決議することと位樂なことはないのであつて、我等如きものでも、『資本主義の倒壞を期す』位は決議なし得るのである。我等は內において先づ共濟制度を實施し、(是とてもなか〳〵困難ではあるが)其訓練と實力を以て更に『資本家の全負擔』に向つて進むことが、現實的であると確信するのである。

三

革命的勞働運動者河田君は、この笑ふべき二つの理由を以て、日本の勞働總同盟は『勞働組合をブルジョアに賣るもの』であり『資本家を謳歌する』ものであると等々と最大級の罵言を浴びせて、それ以外はヒステリー女の發作による喚

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

めきに似たものゝみである。

　事實我勞働總同盟は、過去も然るが如く現在も、資本家階級と各地に於いて白熱的抗爭を續けて居るのであつて、昨年一ケ年に於いて、關東勞働同盟會だけでも、五十四件の爭議を經て居るのである。只我等は、單なる鬪爭氣分を滿足せしめんが爲めに、實力不相應なる戰爭を行ふが如きは、なるべくとらざる處である。

　尙河田君が、『日本共產黨云く勞働組合の有給役員や、幹部の職を辭し、太田警視總監と小山檢事總長等を禮讃し、其岡引きと協力して、組合運動の鬪士を片ツ端しから牢獄へ送つて、ブルジョアの夜の夢をまどらかならしめるべき』であると、憤慨せられて居る。日本共產黨を云々することは、何故警視總監と檢事總長を禮讃する事であるか。我等は日本共產黨なる政黨が存在するか否かは知らぬ。只、所謂『日本共產黨事件』なるものと關聯して、常識的に左樣云はるゝ處の闇的勢力の存在することは事實である。それらが又、到る處に喰ひ込み策を講じつゝあることも、事實である。我等が、勞働總同盟の自主權を主張する立場から、彼等一派の勢力を驅逐した事は、何等恥ずる處がないのである。（除名後評議會を支持せんが爲めに、狂奔しつゝある一派の活躍を見れば、心あるものはうなずく處があろであらう）

　勞働者の解放運動は、これ等一派の專賣品ではないのであるから、河田君等にとつては、『日本共產黨を云々するならば、警視總監や檢事總長を禮讃する』ことになる理の、神聖にして侵すべからざるものであるにせよ、我等にとつては三文の價値も認めないのである。

　由來この一派は、自己に不利益なる者を指しては、スパイの惡名を被せて、運動戰線より葬り去るのか、常套手段であつたけれ共、更にそれを我總同盟に適用しては『御用組合』『協調組合』となり『資本家の土藏の中に安住』するものとなり、『岡ツ引き』となるのである。

四

　山川均氏に云はしむれば、『日本勞働運動の一劃線』の使命あるものと激賞に値する處の、日本勞働組合評議會が創立せられて、愈々革命的勞働運動を進めらるゝ筈となつた。而しながら、此評議會に惡まれて居ることは、一國の運動方針を、モスコーにならつて行けばいゝことである、一例を上げるならば、モスコーが、統一インターナショナルを主唱すれば、評議會は國際勞働組合協議會を提唱するが如くである。

　最近、アナルコサンヂカリズムを標榜する組合として、彼等が永く敵視して來た處の、東京印刷聯合に對して、評議會の關東印刷が、合同の申込みをして、『主義綱領に賛成ならば』と態よくはねつけられたるにもかゝはらず、尙未練タップリの交渉をしつゝある如きも、モスコーが、アムステルダムに合同を勸誘して、『主張綱領に賛成ならば』と云はれながらも、尙未練タップリの交渉をしつゝあるのを眞似たのであらう。評議會の一言一行の、タネ板が、モスコーに在ることは、創作よりも飜譯が樂だと云ふ意味に於いて、大いに幸福な次第である。

五

　目下日本の現狀が、資本家階級の猛烈なる攻勢の下にあつて、數百萬の勞働者が、未だ組織されず却て強大なる反動勢力に向つて走らんとしつゝある時、我等の責任は重大である。二萬や三萬の勞働者の團結を以て何をなさんとするのか？

　我等は、最早お互のくだらぬ論爭は止むべき時である。

　革命的勞働運動者たる河田君等も、其信ずる處に進むべきである

　我等も亦『改良主義者』『協調主義者』『御用組合主義者』『資本家の土藏の中に安住するもの』として、其信ずる道を突進するであらう。

　我等の戰術の一つ一つを、レニンの言葉と對照し、ジノビエフの理論の適用を試みて、彼、非マククス主義なり、我、マルクス主義なりと論じつゝある者の如きは、齒牙に掛くべき代物ではない。マルクスも、レニンも、ジノビエフも、一九二五年の日本の實狀は知らないのである。

　本國ロシアに於いてすらも、レニン等最初の政策は、幾度となく改廢せられて、今日の如き狀態である。況や日本の勞働組合運動に對して、細技末節に至るまで、彼等の理論を完全に適用せんと試みるが如きは、笑ふべき書生論に過ぎぬ。

　科學的日本主義の議論は、かゝる誇大主義的書生論より脫却して日本としての、勞働組合運動の理論と、戰術を樹てんとするにある。

六

　時は正に酷寒に向ひつゝある。不景氣風は、巷を吹き捲くつて、とゞまる處を知らぬ。

　最後に我等は、革命的勞働運動者としての諸君が一刻も早く革命を成就せられんことを祈る。（我等の如き改良主義者を相手にする勿れ）

總同盟分裂批判

苔野一進

『總同盟がとう／＼分裂したな。』

『全くだね。どつちが勝つと君は思ふ。』

『そりやきまつた話さ。』

『ぢやどつちが勝つ。』

『共產黨派さ。金があつて陰險な奴が勝つなあ、昔からの通り相場ぢやないか。』

『なるほど。しかし色々雜誌を讀むと、この分裂一件はだね、そんな單純なものぢやないといふ事だぜ。思想の根本的相違に基くといつてるぜ』

『何、思想の根本的相違だつて、ハハハ笑はせるない。どこに相違があるんだい。一體、何を標準にして、相違だの糸瓜だのといふんだい。』

『書いたもので定めるんだらうさ。』

『フン。書いたものが當てになるかい。筆の先ならどんな事だつて言へらあ。たとへば、堺利彥さんが、昔、有山晉松の原稿の代作をやつたといふぢやないか。つまりあのギヤクを行けばいゝ譯だ。』

『ぢや、日本共產黨事件に關係してゐる人とゐない人といふ風に區別してみるか。』

『日本共產黨事件だつて？、一體ありや何だね。いやさ、いやしくも人の思想を斷定しやうといふ場合に當つてあんなものが、それほど權威あるものと君は眞面目に考へるかね。なるほど、一かど物凄さうなお歷々の顏が列んぢやゐるまた、此の人ならばと思ふ人もな

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

政界より觀たる今日の獨逸（二）

在獨バイエルン　稲垣守克

中央黨はカトリツク教の政黨であるが多くの勞働者はよつて支持されてゐる。勿論資本主義の決定である。今回は六十二名から六十九名に即ち七名の増加を見た。投票者の中で反國粹黨の意味で投票したものが多い。故に中央黨の領袖として國粹黨と同一内閣に立つことは苦しくないが、共和派の選擧戰の面目上右黨聯立に參加することが困難となつてゐる、

資本主義か社會主義か

　今の獨逸は右と左から同じやうな力の線で引かれてゐる。右の側は國粹黨であり左の側は社會民主黨である。社會民主黨の方が國粹黨よりも少し強味があるのである。

平和主義か國粹主義かと云ふ點で勢力を分けて見れば民族黨、國粹黨、國民黨は國粹武斷反動派であり中央、民主、社會民主の三黨は平和主義國際協行派である。資本主義か社會主義かと云ふ點になれば社會民主黨は孤立である。勿論共產黨は反資本主義であることは云ふまでもない。然し共產黨は現在の國際平和派ではない。社會民主黨（第二インターナショナル）が中央黨及民主黨と協力して參加する國際平和運動に對して共產黨は嘲笑的態度である。故に非平和運動を援助する點に於ては共產黨は右黨の勢力の中に計算され得ることゝなる。

　共產黨は全くの孤立である。政府に反對し『聯合國の資本主義』『ドーズ案』「獨逸の殖民地化」に反對する意味に於ては時々民主黨と偶然行動を共にすることがある。然し全くの偶然であつて決して國粹派と了解を有してゐるのではない。社會民主黨が共產黨と不和である程度は國粹黨に對する以上である。今日に於ては最早兄弟喧嘩ではなく不倶戴天の敵となつた。共產黨の運動を阻止し、之を武力的にも壓迫する段になると社會民主黨はすべてのブルジョア黨國粹黨と協力して之を斷行するのである。

　社會主義の正解者であると自稱するマルクス主義者に云はせれば獨逸の社會民主黨は社會主義の政黨ではなく社會政策の政黨となつてしまつたのである。其政綱には堂々と社會主義的の文字が書かれてゐるが、一九一八年革命以來ブルジョアの政黨と妥協して内閣を組織し常に勞働階級の解放戰を阻止して來た事實は之を證して餘りありと云ふのである。

　社會民主黨の爲めに好意を以て解して見ても同黨がブルジョア諸政黨と聯立内閣を組織すれば社會主義的政策を施くことは不可能である。從て資本主義の方面に引かれるのである。

　國粹黨と國民黨とは大資本家の利益を代表する政黨であることは云ふまでもない。但し國粹黨は主として大地主の利益を國民黨は大工業家の利益を擁護するものであるから小さい點に於ては利益が一致しない場合もある。例へば國粹黨は農產物に輸入税を課することを主張するのであるが國民黨にとつては保護有難くはないのである。然し大體の點に於て兄弟分である。

　一九一八年の革命は社會主義の革命に迄進みさうに見へたが社會民主黨が仲介してブルジョアにとつて『適當』のところで止まつた。裁判官、官吏、學校に於て大した改革が試みられなかつた。社會民主黨に關係する人も比較的多く重要の地位についたが獨逸全國の大學は依然として國粹思想家の手に止まつた。議員數に於てこそ社會民主黨は第一黨となつたが獨逸の實際の行政は獨逸のまゝに行はれてゐたのであるから國粹黨にとつては別に根本的の不平はなかつたと觀察するものである。

　右の如く觀察するものは更に國粹黨の立場を次の如く云ふ。革命以來表面から退いて反對黨として立つことが國粹黨の利益であつた。國粹黨が表面に出れば外國が承知しない。そこで裏面にかくれて反對黨として國民の人氣を集めるのに努力したのである。

　社會民主黨も民主黨も中央黨も——或人は無自覺に、或人は自覺して——國粹黨の政策を助けて來たに過ぎないと云ふのである。

　資本家の利益に於て戰後の獨逸には大資本家の爲めの政策は行はれたが勞働階級の爲めの政策は行はれなかつた。聯立内閣は社會民主黨にとつてはよい口實である。特にルールの消極戰にはすべての政黨が參加した。共產黨も之に參加し國粹的、反聯合國的の精神を煽動するのに手傳つた。只勞力のない獨立社會民主黨のみが獨りルール戰に反對したのみであつた。

ドース案の内容

　現在獨逸の政黨で專門家案の履行に絶對に反對なのは共產黨と民族黨（合計五十九名）のみである。此の兩黨の合計は十二月の選擧前には九十四名であつた。即ちドーズ案反對の力が減じたのである。國粹黨

いではない然しあの連中だけが共產主義者で他は日和見主義者裏切者とは何んぼ自惚の強いあの連中自身だつてさうは考へちやゐまい下まはりの奴共は別として。』

『なるほど、すると、君には何にか別に自の思想を定める標準でもあるといふのかね。』

『見覺いつちや困るよ君。その思想それも革命といふ頗る重大な仕事をやらうといふものゝ腹の中がそんなに簡單に、やれあいつは黄色だ、やれ日和見だ、さては裏切り者だといふ具合に、はつきり分るものか。從つて、僕は人に對して、そんな生意氣な口は利かぬ心算だ。先年はアナはアナだボルだで大騷ぎをした。アナは反動だとまで言はれた。しかし、どつちがいよいよといふ時に本當の仕事をやるかは分るものではない。さう思ふと僕は理論的にアナにはなれぬが、アナキストに對しては心から同志として親しみが有てるのだ。』

『それは僕も同感だ。時に、總同盟の分裂だが。キタナイ、喧嘩だつたね。兩方のビラを見たかい。』

『ウム見た。共產派は、宣傳が流石ウマイもんだね。どうだい、雜誌といふ雜誌は、大押、共產黨派だね。山川先生まで病氣を押しての御出馬だ。そうして例の說い裏で、幹部派を裏切り者に極めつけてゐるぢやないか。『青年運動』なんかと來たら、キザで泥くどいな。あそこにはどんな連中が立籠つて居るのだね。いづれ共產黨の出店だらうが同じ出店の『マルクス主義』は、分裂批判ぢや發展總出といふ有樣だ。これぢや幹部派はめちやくちやだね。』

『幹部派も、これで、始めて目がさめたらうよ。それや君、西尾が從十だ、松岡が陰險だといつても共產黨にかゝつてちや、親分のスリとかけだしのキンチヤク切とほどの違ひだからね。幹部派もとん

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

は八月二十九日ドーズ案の可否投票の間際まで反對の大宣傳をしてゐた。五月の總選擧にはドーズ案反對、愛國精神萬歳で多くの投票を得たのである。それにも拘はらず八月二十九日には九十五人の中四十八人賛成四十七人反對と云ふ曲藝を演じてドーズ案を通過さしてしまつた。

ドーズ案は純資本主義方法による賠償支拂案であるから結局所有階級は損をしないで、賃銀生活者が支拂ふことになる。國粹黨にとつては不利益ではない。只同黨は人氣を集める必要上表面賛成出來ないのである。然しともかく八月二十九日以來反對者ではなくなつたから政府に加入して見やうと考へるやうになつた。又一九一八年當時は國粹黨の人氣は無かつたが戰後の困窮に陷つた獨逸國民は聯合國の『非人道的』な獨逸に反感を懷き從つて反動して國粹的になつた。そこで國粹黨が表面に出て來やうと云ふ計畫を立てるやうになつたのである。

如何に國粹黨は半々投票によつてドーズ案を通過さしたとは云へ聯合國は同黨を信用することは出來ない。國粹黨が入閣することは獨逸の外交政策に不利益なる結果を齎すことは明かである。

要するに今日の獨逸に於ては平和主義、履行主義の共和派が反動派より少し勢力を得てゐるが、共產黨と反動派との合計に勝つことが出來ない。此狀態は當分の間繼續するであらう。來るべき數回の總選擧に於て其時々の當選者數は異るであらうが、獨逸國民の大體の分野は現在の政黨の代議士數に反映されてゐる。獨逸の外交關係は依然として圓滑には行くまい。

經濟上に於ては表面安定である然し此まゝ安定がつゞくには見られはない。ドーズ案が出來借款が成立したら人氣はマルクを維持してゐる。今は金が這入つて來る時であり、貨幣の改造、銀行組織の改造、物價問題で人氣が保たれてゐるが賠償を拂ふことになり、借金の元利を返還するに到れば再び問題が起るのは今より想像すること難くない。暴風の前か後かは知らないが、此『なぎ』は永久的とは思はれないのである。

獨逸の內政は國際關係を引き出さなければ考へられなくなつた。國粹派の勢力の增減も賠償問題に基因する。糸を引いて其源をたづねれば世界大戰である。賠償問題である米國に乘り過ぎた金の處分である。ドーズ案は、米國の投資方法である。このまゝ進めば米國に流れ込む黃金の流れは英國外の諸國民を溺死させるやうなことになる。

對獨貸付は賠償の支拂を前提として成立した。賠償計畫は總括して五年十年數十年の問題である。獨逸側にとつて履行反對派の勢力だけ、それだけの程度で常に障害が起るであらう。又其圓滿なる進行は經濟上から觀れば益々疑はしいのである。

本日宰相マルクス（中央黨）は內閣總辭職を正式に共和大統領エベルトに申出た。ともかく後繼內閣が出來るまで事務の繼續を委託された。大統領は各政黨の意見を十分聽取してから新內閣組織の依賴を下すことになる。その前に各政黨が態度を決定する會議を開くと云ふ段取りである。中央黨の態度が注意の中心になつてゐる

（十一月十六日）

ドイツの歷史

ドイツの社會運動はフランスのそれと比して、そのおもむきをかなり殊にしてゐる。從來フランスの社會運動は一人の人間を中心として發達してゐるがその人間の沒後はそれと共に衰微して來たかの感がある、即ち、一種の個人的雰圍氣に似たかの運動が行はれる。これに反してドイツは、フランスのそれ程左樣に個人の意見か重視せられず黨として行動が行はれ從つて一つの黨としても永い歷史のもとに動いてゐる。この兩者の對照が頗る面白い。

閑報（1）

元共產黨員 M 生

▲北原龍雄が閥の金一萬二千圓を大阪北濱で相場に投つて了つたから、委員長荒畑がこれを責めなぐり合をした、北原に云はせると荒畑は二百圓もする角帶をしめて女郎買に金を投つて居ると、社會運動の成金はどうでもするかい、彼の運動は吾々無產階級解放運動に關係ない、

▲荒畑委員長荒畑の秘書渡政之助の金の出し方が惡いとてピストル向けた者がある渡邊は机の下にかくれてガマ口を出して助つた

▲まるい事ではあるが北原は進め社に居た時、堺閥から毎月百圓をもらつて買收されて居た、田口も又百圓もらつて居たから福田が怒つて叩き出した、それから進めに原稿妨害、讀者妨害、資金妨害、そしてゴミ共に惡口を八方に云へふらさせた、乘つ取、攪亂、惡口これが閥の生命である、僕達はこんな事は解放運動を害する事と悟りて自發的に閥を退いた閥には惡黨計り結束して居つて潔白な青年は一人も居ない大阪方面では曾てスパイをした巡查上りを使つて共產黨振りを利用して居る

だ者と取組んだもんだよ。しかしこれも因果はめぐる水車で、あまり小面憎いほど威張つて來た當然の報いさそれでやつぱり、君が先に言つた樣に、特に、金があつてマゴのハイみたいな奴が結局勝つて行くんだね。』

『何といつても、今は資本主義の世の中だものね。』

『それにしても、情けないな。ブルジョアなら兎も角、僕達同志がそれぢや……』

『ハヽ君も案外ユートピアンだなあ。君の崇拜する堺山川さては島中といつた大將連の腹の中を一分間でもいゝから想像してみたまへねえ分つたらう。だから、社會運動は人間の人格や根性を念頭に置いたら駄目だ。それを考へたら、君みたいに正直な者は悲觀して引込んでしまう他なくなる。味方は大勢の力だ。これを信じて猛進することだ。だが、君の所謂親方のスリとかけだしのキン着斬りの喧嘩はよかつたね。』

『ハヽヽ、然し、これも一つの立派な總同盟分裂批判さ。』

…▲ケンクワ▼…

『火事と喧嘩は大きい程面白い』ものであるにしても、就中敵の牙城が火災に合つたり、其の陣營が仲間割れに混亂し切つたりするのを高い山から見下してゐる事は、只、それを想つて見たゞけでも、面白味を通り越した、痛快さが湧く。然しそれが味方の陣營に天降つた時は、味方が痛快がつたと同じ程度に於て敵に痛快がとれなければならない。この覺悟がなければ分裂なぞは出來得るものでないとは云へ階級線の戰列は斷じて理のカザス大義明文なぞに終始するものではない。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

入營せんとする青年に與ふ

福田狂二

最近、全國の青年諸君から『徴兵に付いて——兵營にあつて、如何にして兵役を務めたらいゝか』と軍隊生活に付いて質問して來る中には私の兵營時代の如く暴ばれ廻つてやると云つて來る者もあるが、私は是について、同志であり新社會の建設者たる諸君の如き有爲な青年の爲に、私の今考へてゐる此の兵役及び軍隊生活について私の體驗及び希望を述べる

私は明治四十年の徴集兵で重砲兵であつた、私の入營した當時、日本にはクリスチヤン出身の社會主義者ばかりであつた、無抵抗主義を唱へ、軍人を惡魔の如く又殺人的奴隷として排斥して居つた。

此當時幸德が米國から歸朝して、無政府共産主義を主張し、直接行動を鼓吹した、而して、彼の革命論は勞働者の總同盟罷工に依りてのみ可能であると力說した、それを私は受入れる事が出來なかつた

斯ふ云ふ時代であつたから、私も軍隊に入る事が非常に厭だつた。荒畑君などはわざ〳〵肺病となりて兵役を逃避した、それから、此の武器に對して云ふべからざる嫌厭の情がむら〳〵と起つてゐた。故に私の軍隊生活は士官に抗命抵抗し、軍規を破壞し、營倉二十一回と、軍法會議に二回も行き、懲治隊で終つて了つた。こう云ふ始末で私の軍隊生活は、私の血氣にまかせて軍規を破壞したのみで何の得る所もなかつた。

當時の同志等は是れを痛快とし私も心窃に愉快でならなかつた、それが後になつて却で私の軍隊生活が何の意義なきものになつて後悔して居る、

私は大正二年三月除隊せられた。そして一週間後上海に行き、第二革命に加はり、社會革命を敢行し

當時、支那には社會革命黨と稱する張繼、汪兆銘、戴天仇等數十名の同志があつた、此の内、張君は明治四十年日本に於て、日本社會黨に加盟し大杉や堺と治安警察法に問われ、變裝してフランスに遁れた、彼の支那革命の總大將、黄興も日本亡名中は、社會主義者と交り、就中、石川三四郎君とは交りが深かつた、

此の舉を大杉榮は贊成して私に彼の父の片身長船の銘刀を入れた軍刀を贈けた私より一年若く世田ケ谷の野砲兵に入つて暴ばれた森川正讓君が私を追蒐けて上海にやつて來た、私は支那に於て社會革命を威さんと各地に轉戰した、最後に南京城に立籠つた、中國社會黨漢江支部長、何海鳴を革命軍總司令とし、私は其の參謀總長となつた、此の時官軍は四百餘洲を震駭した張勳と今幅を利かして居る馮玉璋の兄の馮國璋が玉璋を連れて四萬の兵を以て南京を包圍した、私共、革命軍は烏合の衆で苦力や職工を軍人にした形ばかりの兵隊であつたから、戰爭に勝てやう筈がなかつた、總大將の何海鳴にも軍刀の拔き方を敎へてやつた位だつた。況や戰術等か判りやう筈がない私は日本の士官學校の軍事學敎程や各兵科の操典を陣中に熟讀したが中々判らない、それでも私は蠻勇を現はして奇襲を試み張勳を退却せしめた事がある、これは怪我の功名とでも云ふものであろう。

日本の軍人で、士官が澤山來て居つた、此中、櫛引と云ふ豫備歩兵大尉が私に『君は重砲兵だから要塞砲が打てるか？』と質問した時になんでも打てる譯に云つた、而し、私は加農砲は打つ事が出來るが、榴彈砲は標準がわからぬ。實際に當つて打てなかつた、

戰術は少し頭のいゝ兵なら大概の事はわかるものである、

軍律はそう大した束縛でないと思ふ。殊に今の兵營では私共の時と違つて、數十倍の自由を許されて居る、その當時、新聞を見た者は營倉に入れたものである。今の[illegible]従が出來な[illegible]へ、大革命を[illegible]建設する事が[illegible]吾等の[illegible]を要する、

私は諸君が進んで軍隊に入る事を希望する。

或時に私の樣な憾を殘さゞらん事を祈つて止まない。今の日本のやうな時代に於て、兵役の一年や一年半の時間は諸君が假令、鄕里にあつても大した事は出來ないのである。

必ず、彼肺病患者の云ふが如く書齋のインテリゲンチヤの云ふが如く、軍隊を嫌がつてはならない軍人にも成れない樣な貧弱な身

ある。

浩然の氣は健全なる身體に宿る

肺病患者は遍見と日和見主義、方向轉換論者であつて、變節と逃避者が多い、

斯ふ云ふ貧弱な肺病患者は何時でも日和見方向轉換許りして勇健なる思想と遠ざかり、魂が腐つて來る、吾々の事業は魂のしつかりした人でなければならぬ、少し許りの學問や小理屈は何にもならぬ生きた證據が諸君の眼前にあるのである。

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

やがて國家成員の大多數無產階級を護るに到るのである。そして其時は此の私共の住む社會から、數千年續いたる不合理の非道が永遠に無くなり、全人民に厚生と安寧逸樂の幸福生活を齎すこととなるのである。

どんづまりの人間

山川亮

百姓の多くは酒をやめしと云ふ
もつと困らば何をやめるらん――啄木

實際に於て今日の農村勞働者即ち純小作人や日雇稼ぎは、生活に窮して、盗みでも仕兼ねまじき狀態にゐる。私が最近――大正十四年五月――に各地の農村を旅行して來た、斷片的な印象に就て云へば。私の知人のS君は、『農村は米價が高くて好景氣だと云ふけれど、それは地主側の云ふことであつて、實際は一俵に廿圓した時よりも、自分達は苦しい。それはどんなに米價が高くとも、折角自分達の作つた米の大部分は、殆んど地主に取られて了つて、その地主から値の高い米の一升買ひをさせられてゐる。其上に從來あつた日雇稼ぎや、藁織の口が、ペツタりとなくなつた』と語つた。そのS君は昨年の冬に川狩――海から上る魚を捕へて、市場に賣り生活の資を稼ぐ――をやつた爲め、遂に脚氣に罹つて危篤の狀態になつた。醫者に診察して貰つたら、毎日六十八錢づゝの藥代をボラれたので、一週間で藥代が續かなくなつて服藥を中止した。そして毎日、藥のかはりに糠を喰つて(糠が病氣に利くと云ふので)、此頃では漸く、兩手だけが動かせる樣になつたと、口惜がつてゐた。米の値段が高くつて、農村は大景氣だと云ふ說の裏には、六十八錢の藥價が拂へないで、瀕死の狀態に降た農村勞働者がゐる。然し。然しS君の場合は兎も角も助かつた。更に今一人のT君と云ふ知人の場合に就て云ふなら、このT君は河川工事の土方だつたが、やはり脚氣に冒され、而も惡性の心臟脚氣だ。醫者に連れて來て診察させたら、一寸胸に聽心器を當てたきりで、さつさと歸つて了つた。後から藥を取りに行つたら、『金を持つて來たか。』と云ふので、『持つて來ない。』と答へたら、『藥はやれない』と拒絕した。二度目に診察を頼みに行つたら、『今は客が來て碁を打つてゐるから、行けぬ。』と拒絕した、その晩、T君は私がその小屋を出て一時間と經たないで、悶死して了つた。

資本主義學者に云はせると、これは其の當人の罪なのださうだ。常人が平常から心懸けて、貯蓄さへして置けば、病氣の時に醫者に金が拂へるし、金さへ拂へば、醫者は何時でも來て呉れるし、どんな藥でも飲ませてくれると云ふのだ。然しその金を、どうして小百姓が稼ぎ出すことが出來るか。事實がその不可能を示してゐる。次表はS君の材料を基礎にして私が作製したもので、不完全ではあるが、大體の事情は判る。(但しこの表はかなり最高の賃金や、米の收穫を舉げてある。實際の平均率は、もつと低いからその積りで讀で頂きたい)。

職業別	勞働時間	日收	月收
土工人夫	一〇―一二時	一、七〇圓	三四、〇〇圓
農業人夫	一〇―一二	一、〇〇	二五、〇〇
保線工夫(驛)	一二	一、一〇―一、三〇	三三、―三九、
通信工夫(同)	一二	同	同
通信工夫(局)	一二	、七五―一、〇〇	二三、五―三九、
驛夫	一二	、九七―一、三〇	二九、一圓―三六、
郵便配達	一二―一六	一、二〇―一、三〇	三六、〇―三九、
荷馬車屋	一三	四、	一二〇、〇
大工	一〇―一三	三、	七五、〇
石工	一〇―一二	四、	七五、〇

此處に列擧したやうに、農村の日雇稼ぎや道路修繕に使はれる、純農村勞働者の月收は、毎日十二時間働いて、一ケ月に漸く土工で最高三十五圓、日雇稼ぎで二十五圓である。そして荷馬車屋や、大工、石工にすれば七十圓から百二十圓の月收があるらしく見えるけれど、この金の約半分は親方の手に入つて了ふのである。これで親や妻子を養ふは愚、自分一人の糊口さへ、辛ふじてであるのに、どうして貯金する事が出來るか。貯金といふことは、農村勞働者にとつては贅澤な思想である。更に純小作人の生活狀態、並に自作兼代の百姓の生活を表に依つて示すと、次の樣になるのである

	純小作人	小作兼自作人
小作反別	八反	三反
所有反別	〇	四反
小作米	四〇俵	一五俵 } 三五俵
自作米	〇	二〇俵 }
年貢米	二四俵(反三俵)乃至二八俵(反三俵半)	九俵(反三俵)乃至一〇俵(反三俵半)
家族數	三人	四人
一ケ年飯米量	一四俵	十八俵
勞働時間	一〇―一二	一〇―一二

米一俵が廿圓したとしても、どうし純小作農が一ケ年間、三人家族で生活して行かれるか。其處で農村には盛んに副業が勸誘されるのだが、それもS君の調査した所に依ると、次のやうな狀態で、これでは稅金を拂へば、酒煙草も飮まれぬ。否、人間の干物にならざるを得ない。

	叺造り	繩造り		ミノ造り
日收	一、三〇圓	、四〇	、六〇	三、〇〇
原料代	、一七五	、四五	、二四	一、三〇
差引	一、一二五利	、五損	、四〇利	一、七〇利
月收	三、三七五利	一、五〇損	一、二利	五一〇利

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

だから、この全部を勘定としてやれば、一ヶ月の收入は八圓七十五錢となる。然しこの算出は、冬期農閑期だけであつて、それも一人が十五時間、ブッ通しての勞働收入であるから、實際に於ては、家族三人分位の稼ぎ高にあたる。

改めて此處で農村純小作人の生活を概說すると、一ヶ年の勞働の結果、自分の手に殘る米は、僅か二俵である。一俵廿圓と見積つても四十圓。これに農閑期三ヶ月の全收は、二十六圓餘で、合計した六十六圓程の金が、一ヶ年の全收金額である。月に割つて六圓に足ない。この現實に直面しても、僅貯金をして、萬一の病氣の際の醫藥料にせよ、と說く者があるから其者は思ふに馬鹿か狂人である。

更に今度の旅行で、悲慘な話を聞かせられたから、それも序に述べて置かう。場所は東京から左程に遠くない、某炭鑛の話である。此炭鑛も全國的パニックの餘波で昨年秋以來、そのハケ口がばつたりと止まつた。歐洲戰後から、既に苦境にあつた所へ、今度の大不景氣で、炭は餘る程採掘されながら、それが山のやうに積み出されたまゝで、空しく雨ざらしに會つてゐる始末だ。人員も減らし給料も値下げをやつたが、そんな事では到底追附かない。此頃では坑夫達への給料も滿足に支拂はない。飢に襲はれた炭鑛夫は何んでも食へるものは食はなければならぬ。そこで始まつたのが、病死した馬の屍體を掘り出して喰ひ出した。此地方では、山奥へ馬の屍體を埋ける。山へ馬を擔いで行く姿を、坑夫の一人が發見しやうものなら、その晩は忽ち炭鑛中に擴がる。その晩は鶴嘴やショベルを擔いだ坑夫が十數人も押し懸けて、朝までには骨と皮に引剝いで了ふ。腸や腦味噌ですら持つて行つて了ふ。からなると番人も恐ろしくなつて『坑夫が來たゾ。』と云ふと、一目散に逃げて了ふとの事である。まるで噓のやうな話だが、これは實際の出來事だ。この話を私に聞かせてくれた、その炭鑛附近のある百姓は、『馬どころか、狂犬病で死んだ犬でさへ、彼等は喰つて了つた。』と云ふ事實を私にし示した。

これは『十二』と云ふ樣な理論ではない。何故こんな現實が『自分達の眼前にあるのか。こんな現實を、この地球上から追ひ出して了ふのは、この餓鬼道の苦しみから人類を救ふのには─拔でブルジョア學者は云ふ『働いて金を溜ろ』ブル政治家は云ふ『吾々は農村救濟策を立てゝゐる、辛棒しろ』と。然し自分達は斷乎として、それらの總てに反對する。ゴマカシの政策や、お情の慈善策では。農村のプル階級は救はれやうが、純勞農者は永久に救はれはしない。それはかりか益々浮ぶ瀨もない深淵へ落ち込むはかりである。

普選案は衆議院を通過した。參政權は諸君の手に與へられた。然し、無產階級の死苦の惱みを救ひ國に解放を齎すものは、何であるかを、ハッキリと考へて欲しい。これを再び無產階級青年諸君の前に訴へる。（完）

閥を討て！

野口君三

解放運動の攪亂者日本共產黨は數十年來日本の無產階級闘爭の破壞をなせることは彼の歷史が明かに示す所であつて何人もこれを打ち消すことが出來ない。

共產黨と稱するもの必ずしも無產階級の味方ではない、野心ある社會主義者は自己の野望を遂げんかため名を社會運動に藉つて幾多の解放運動を破壞しこれがため起らんとする者を挫き其の結果資本家の我が無產階級に加ふる壓迫と夥しき結果をもたらすものである斯の如き時は社會主義者の行動は無產階級の敵となる譯である。若しかゝることを爲す社會主義者があつたなれば、日本の無產階級は全力を擧げてこれを討たざるべからず、既に外國に於て幾多の不良共產主義者出でしことあり、支那に於て陳獨秀の如き者は罷業を煽動し、吳佩孚をして勞働者を銃殺せしめ、其の見舞地と稱して口シヤ及び支那の勞働團體より寄附金を集め酒色に費せしこと發覺して今上海各地に於て彈劾されつゝあり、不幸我が日本にも社會主義王と稱せらるる彼の腐敗の頭目は資本家及官憲と結託して幾多の潔白の同志を賣り、三十萬の巨財を積めるは、社會運動に忠實なる者の切齒扼腕する所である。

彼の閥はあだかも政界のそれの如く、政界の閥政友會がその彰然たる勢力を利用して國民の膏血を搾りたるが如く、無產階級の閥亦隱然たる勢力を以て無產階級を欺瞞せり、その術策の相似たる、吾人は驚かざるを得ず、

政友會は、憲政有終の美を完とし、日本共產黨は無產階級の獨善を看板にする、何ぞその相似たる、何ぞこれを行ふの意志なき、日本國民は禍ひなる哉、日本無產階級は禍ひなるかな、さきに政友會に欺かれ、今日本共產黨に欺かる、日本共產黨の今日の勢力をなせる術策は堺利彥の德川家康的性格の致せる處にして惡辣無比[illegible]すべきものである。我等は今こゝにその多くを言はず。最近起りし總同盟の刷新運動け日本共產黨が無智なる勞働者を買收して總同盟乘取り策を成さんとせしことである、何れ近き將來に於て[illegible]紹合や水平社にも日本共產黨が魔の手を延す事は今から斷言しておく、彼等はこれを潜行運動を稱し、泥棒的行動を以て神聖なる社會主義運動を冒瀆して居る、最近日本共產黨な露西亞より五萬圓の總同盟乘取り費を受取り毎月二萬圓の生活費を與へられて居る刷新派の者は四十圓以上手當を給せられてゐる、彼等は常に無產階級の大會に於て惡鬼の如く陰謀し、暴力までも用いてゐる。

此の閥賊の流れを汲む者は悉く共產主義者に非ず、露西亞ブローカー無產階級の敵、社會運動の胡麻の蠅と稱すべき者である。全日本の思想運動、組合運動に從ふものは起つて此れを倒さなくてならぬ。

新社會の到來（承前）

鈴木厚

（一）

社會の柱である勞働階級を、工場や農場や其の他の各方面で、資本家階級が搾取し、無智と貧困との中に投じてゐるといふことは、既に明かなことであるが、さうすると理屈の必然的な經路として、茲に一つの問題が生ずる。それでは自分の支へ柱を、そんなにも苦しめ弱める資本家社會は、即ち今吾々が目の前に見てゐるこの社會は、さう遠くない將來に於て、全く立ちゆかなくなつて、自分自身がやつたことが自分自身にかへり其の爲めにがつたり大地震のやうにつぶれてしまふであらうといふことが、自然考へられて來る。實際理屈をつきつめて行けば、其れはさうなることを示してゐる。

然しながら資本家階級は、立ちゆかなくなつてつぶれるのを待つほどに馬鹿ではない。彼等は馬鹿どころか、なか〱利巧過ぎて煮ても燒いて食へない、諸君はよく御承知である筈である。勞働階級があまりに貧困で、あまりに無智であると、社會が立ちゆかなくなり、つぶれる心配があるから、彼等は決して勞働階級を、あまりにひどい貧困やあまりにひどい無智にはおかない。其れを證明する事實は數へて見ると澤山にある。先づ第一に吾々は、一つの工場に就てしらべて見よう。

勞働者が一つの工場で、資本家から受けゝゐるものは、必ずしも賃銀だけではない。米や味噌や衣物などに姿をかへる賃銀だけではない。ちよつとしたことではあるが工場の便所へ行つて見ると、そこには石灰がまかれてゐる。勞働者が病氣になると、工場附近の醫者に見て貰へる。或時はまた勞働者は、新聞雜誌を見て樂しむ設備や遊戲をして樂しむ設備を受けてゐるかも知れない。或時はまた貧しい住宅を貸し與へられてゐるかも知れない。資本家は、これ等のものを、勞働者を搾取した金のほんの一小部分でつくり與へてゐるのだが、それにも拘はらず親切ごかしに、これらのものを勞働者諸君に與へてゐる。其れは何の爲めにであるか。自分の工場に出てゐる勞働者を、あまりにひどい無智に陷ることがないやうにする爲めにである。何故かなれば、自分の工場の勞働者が、あまりにひどい貧困やあまりにひどい無智にある時は、其のことが直接、工場の出來高と品物の質とに關係するからである。即ち仕事の出來高と質とに關係すれば、從つて其のことは工場の繁榮に關係するものであるし、結局自分の利益、自分の儲けの割合に關係するからである。

一工場は事實さうである、けれどこれは一資本家國家に就て見るも同樣である。一工場は一資本家の經營するところのものであるが一資本家國家は一資本家階級が支配し管理してゐるところのものであるから、兩者の間には敢て變りがないのである。見よ、いづれの資本家と雖も近代的な國家は、幼い子供等を工場で使用することを禁じ、其の上になほ義務教育といふものを與へてゐる。幼い時に搾取して、あまりに無智に、あまりに不健康なよれ〱の者にすることは、其れは全階級としての資本家階級の利益を害ふものであるからである。またいづれの近代的資本家國家と雖ども、姙婦の保護をなしてゐるであらう。姙婦を工場であまりに搾取することは、彼女の胎内の子供の發育を害し、將來のよき勞働者、即ちより多くの剩餘價値をつくり出すところの勞働者を失ふことになる所以であるからである。其の他擧げ來れば實例はいくらでもあるかも知れないが總ての工場法、總ての慈善事業といふものが、結局は勞働階級を、あまりにひどい貧困やあまりにひどい無智の狀態たおくことの不利益を防ぐ爲めのものになつてゐる。

これをもつと判り易くかいつまんで述べるならば、資本家階級は決して勞働者階級をあまりにひどい貧困や無智におくものではないが、さりとてまた決して富めるものや學問あるものたらしめるものでもなく、俗にいふ『へびのなまごろし』の狀態に諸君をおくものであるといふことになる。かくて社會の柱は弱められはするが、全然挫かれるやうなことはない。從つて今日の社會が單に其の度めにつぶれるやうなことはない。

然らば資本家階級をどんな具合に仕組んでゐるとしたら、それでは勞働者階級は、永久に『へびのなまごろし』であるか?。永久に勞働者の世の中は來ないか?勞働者にとつて住みよい世の中は、果していつ來るものなのか?。

（二）

勞働者にとつて住みよい世の中が、いつ來るかといふことを明かにすることは、其れはずいぶん困難な大きな問題である。この問題は丁度大きな秘密室のやうなものである。中を外からのぞくことは出來ない。どんなに室の周圍をぐる〱廻つて見ても、中のことは何も判らない。この室の内部のことを知る爲めには、ただ一つの鍵をつかむことが必要である。

其の鍵とは他ではない。人間の社會は、ずつと大昔から進化して來たものだ、其れは今日の社會で杜絶えてしまふものではない、これからもなほずつと先へ續いて行くものである。鍵とは其のやうに社會を押し進めて來た而もなほ押し進めて行くところのもの其のものをいふのである。そして其れは永いこと何であるか、何によつて生ずるか、全く判らないでゐた。換言すればただ一つの鍵を、人類は容易につかみ得ないで、秘密室の周圍をぐる〱廻りをしてゐたのだ。然るに自然界の其れはダーウインによつて、人間社會の其れは、マルクスによつて、遂に發見されるに至つたのである。

今吾々は勞働者にとつて住みよい世の中がいつ來るかといふことを明かにする爲めにも、其の鍵を必要とする。されば其の鍵を求める意味で、吾々にとつては最も手近かな最も親しみ深い物語りである維新の革命に就て、即ち如何にして封建社會が倒れて、今日の社會が出來たかといふことに就いて出來るだけ簡略に述べて見る。

德川末期に於ては、士農工商に

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

いつて最も卑しめられてゐた町人階級は、實際は國內の經濟力を獲得し占有して、立派に武士階級に對立し、寧ろこれを屈從せしめてゐるかたちであつた。其れは蒲生君平をして『大阪の富豪一度び怒れば、天下の諸侯は皆慄え上る』と言はしめたほどの有樣である。元祿の頃既に江戸には紀ノ國屋文左衞門あり、大阪には淀屋辰五郎あつて、榮耀榮華を極め、天下の驚異を惹いたのは諸君も知るところであるが、當時は多くの紀ノ國屋が現はれ、多くの淀屋がつた。即ち當時町人階級の最も代表的なもの、大阪に於ては掛屋、江戸に於ては札差と稱する一種の金融資本家は、下情に通ぜざる諸侯をだまして、租稅の米を安く買つて高く賣り、時にはまた互に連絡をとつて相場を狂はし、不當の儲けをやり、大いに富み榮て、動かす可からざる社會的實勢力を獲得してゐたのであつた。

事情斯くの如きものがあつたから、武士階級と町人階級との間には、常に大小の葛藤が絕えなかつた。武士階級は町人新興階級を壓服し抑壓する爲めには、屢々彼等のお手のものである權力を利用した。米價の調節なぞも其の一つと見ることが出來るが、寬政元年に出した老中松平定信が、『棄捐令』は、其の最も著るしいものである。其れは札差町人より年々借金してやりくりをしてゐた旗本や御家人等か、生活か到底立ちゆかなくなつた爲めに設けられたものであつて、其の中には『天明四年以前の借財ぼ、悉く帳消しにし、償還を免除し云々』とある通り、明かに武士階級が自己の階級を擁護せんが爲めのものであつた。それ故に其れは、武士階級にとつては手前勝手な非理だ、けれど有利な方策で、札差町人にとつては不利な不當な大打擊に相違なかつた。其の結果がどんなになつたかといふに無論のこと札差連中は、貸出しをきびしくなし、殆ど貸出停止を行つた。すると皮肉にも、もとく苦境にあつた旗本御家人等のことだから、從前よりも甚だしい苦境に陷らない譯にはゆかなかつた。そして遂には權力を以て借出しを强請するに至り、町人は町人で其れお防備を考へ、玆に暴力の對立を見るに至つた。即ち藏宿師といひ、俠客幡隨院長兵衞といひ、さうした雰圍氣の所產である。しかしまた町人階級の新興勢力に對立する爲めには、其のことのみでは不充分となり、其後天保十四年またも、札差に借た金は古いのも新しいのも共に、無利息二十ヶ年賦となすといふことになつた。

思ふにこれ等の事實は、既に武士階級から町人階級に、社會的實勢力が移り、武士階級は支配階級としての最後の方策、苦肉策に出たものであることを示す。それと同時に、町人階級とは今日の資本家階級の前身なのだから、維新革命が當然起る可くして起り、成就す可くして成就したものであるといふことが自ら明かにならふと思ふ。

かくて吾々は、社會の進化が、階級鬪爭其のものによつて押し進められて來たといふこと及び今後も押し進められて行くといふことを知る。結局秘密の鍵とは、『階級鬪爭』の四字に他ならないことを知る。マルクスとエンゲルスが說いたやうに『從來の歷史は階級鬪爭の歷史である』のである。、

しかし兎に角にも其れを思ひ、今日の社會狀態を思ふ時、自然今ある社會から次の社會への過程に於て、如何なる力を有するものが、其の階級鬪爭に於て强者であつて優勝するかといふことが問題となる。封建社會から今日の社會への過程に於ては、即ち世の中が貨幣經濟に變りつつあつた狀態に於ては、米や麥よりは金を持つてゐた町人階級が、最强者で優勝したが、今度は貨幣經濟が勞働經濟に變りつゝあるのだから、金でないとしたら何であるか？、といふことが考へられる。

前に述べたやうにあらゆる品物が、勞働階級によつてつくり出されてゐる限り、農夫がなければ米はなく、多くの種類の勞働者がなければ、衣物も家も何も彼もある筈がないといふことは何人にも認め得られるであらふ。全くさうであるから、如何に莫大な金を持つてゐても、農夫や勞働者がなければ、寒さにふるへ、飢えに泣かなければならない譯である、從つて封建社會から今日の社會への過程に於て、力となつたものが金であつたやうに、今日の社會から次の社會への過程に於て、力となるものは、人間の勞働以外の何ものでもないといふことが出來るのである。

資本家支配機關の下に於ては、勞働階級は或は弱いかも知れない。が、權力の爲めにであつて、權力考へに入れなければ、勞働階級はど强いものはない。資本家階級がなければ存立しないが、勞働階級は資本家階級がなくても存立するものである。資本家階級は昔武士階級が金を有しなかつたやうに、勞働力を有しないが、勞働階級は昔資本家階級か金を持つてゐたのと同じ意味で、勞働力を有してゐるものである。そして今日の社會から次の社會への過程に於て、力となるものか人間の勞働以外の何ものでもないとしたら、勞働階級こそ社會的勢力を有してゐるもので、次の社會の支配權を掌握することになるものである。如何に資本家階級が利巧で、うまく社會を仕組むとも、階級鬪爭といふ事實になつて現はれる。社會進化の大きな流れをせきとめる」とは出來ないし、而もせきとめることが「出來ない限りは、勞働者ことつて住みよい社會が、近き將來に到來するといふことは明かなことである如何に資本家階級が、勞働階級を『ヘビのなまごろし』の狀態におくとも、新社會の到來は、水が低きに流れるのと變りなく必然的な事實である。そしてこれこそは、勞働者を失望の谷より救ひ、希望の高峰に導くものであるといふことが出來る。（完）

初夏の風

――直平――

×

メーデーに假裝を撲つた巡査の
其の緊張面を或日交番の前で
初夏の風は吹く

×

白と赤、から大方のものごとを
色分けして見る
假裝の目はかなし

×

其の顏のどこかに同じくせのある
刑事の顏を
かなしと思ふ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

全土戰報

東京府

〔進め〕よ行渡れ

文部省で中等學校生徒の社會問題に對する理解の程度を知る爲め男女學校百九十に就て答へを求めたスルト『水平運動』とは身體を水平にして平均を保つ運動……『社會奉仕』とは慈善事業を出すこと『共産主義』とは共同して賣買すること『左傾思想』とは左側通行の精神――と來て文部省の役人達ウナつただけで聲が出ないこうゆう記事が朝日新聞に出てゐました然し私は思ひます。何といふ名答であらうと、これだけの名答があるでありませうか。

實際日本の社會運動はそれに違ひはありませぬもし私が文部省の役人であつたなら恐らく之に滿點の得表を與へたでありませう殊に『左傾思想』とは左側通行の精神……に至りて私は双手を擧げて贊成せざるを得ないのであります『日本の國には社會主義は起らない』と誰かが云ひましたつけねいなんだかそんなような氣持がしますまた今日まで日本の國には社會主義がなかつたのでありますそれは或はブローカーや野名の徒が少しは動きましたされど然れ共大衆を基礎としたる――大衆が自ら起つての運動はなかつたのであります、『左傾思想』即ち『左側通行』である。限り社會主義が起る道理がありませぬ。この道理のない、この無自覺の大衆を背景として、日本に社會運動を起そうなどあまりに大膽あまりに、暴擧だと思ひます、日本の社會運動が社會主義者のための社會運動であつたりまた一方無自覺の大衆であつたりしてかくして我々の生活は――我々の自由幸福は到底望めよう筈はありませぬ今や一世を擧げて慘憺たる不景氣の風は吹いてゐます而して米價は一升[illegible]の殺人相場をだしてゐます勞働力があり餘つてゐるに拘はらず働くに職がないのです物貨は山積されてゐるに拘はらず非常の高價を稱へて之を求むる事ができないのです此不合理――此社會の缺陷よ我々は目覺めなければならない奮起せなければならないどうしても大衆の自覺を促さなければならない依て私は進め社の販賣部となりて雜誌『進め』の販路擴張に全力を注ぐ所以であります全日本の津々浦々に『進め』のゆき渡るべく祈るのであります

（高田町　中島新七）

淚を呑んで慘敗を宣言す

我が關東勞働組合聯合會高砂ゴム工業株式會社爭議はこゝに終息を告げた。

實に二十有餘日、我が爭議團は檢束に次ぐ檢束、拘留に告ぐ拘留戰鬪はよく彼資本家の心膽を寒からしめ、堅固なる彼等の警備を突破して遂には入獄したる紛爭をさえ演じた、されどこの二十有餘日の奮鬪は空しく遂に終つて慘敗を宣言するの止むなきに至つた、吾等は今淚をのんで慘敗を叫ぶ『慘敗！慘敗！』この悲痛なる聲は諸君の胸に如何に響いて行くものであらう、燃え上る吾等の血潮は今や冷く凍えて行く、慘敗を叫ぶ聲ははげしく闇に吾等の耳を打つ、怨恨は深く胸を喰つてかけめくる

我が關東勞働組合聯合會は、諸君の熱誠なる應援の遂に空しきを恥づる、たゞ吾等は、吾等の試金石の如何に意義ありしかを知るのみである吾等のこの苦き經驗はよき賜物である。そは來るべき闘ひへの準備である。

備へよ！備へよ！我が聯合會は恨みをのんでこゝに慘敗の宣言を發する。

六月三日

關東勞働組合聯合會

愛知縣

我等は組合權確立の爲に戰ふ

全日本の勞働者諸君

我々日本陶器株式會社の從業員三千人は久しい間勞働組合組織を希望者ながらも會社の不法の抑壓の爲めに、その目的を遂する事が出來なかつた。而も我々の平均月收は僅に一箇月四十二三圓を出でず生活は極度に不安を極めた。否到底人間らしく生きる事は出來なくなつた。玆に於て我々窯工部員百二十名は日本勞働總同盟に加入した

然るに會社は二月二十八日我々の組合加入を承認する旨を職工代表數十名を集めて公表し置きながら偖々その記事が新聞紙上に現はるゝや他會社資本家は批難を受けたる爲め厚顏無恥にも忽ち態度を豹變して突如何等の豫告もなく組合加入者は全部馘首する旨を告示し我々に挑戰して來た我々は極力隱忍して戰ひを避けん事を希望するものではあるが、苟くも我々勞働者の組合組織を根本より否認する此の横暴なる威嚇に對して、到底屈從する事の出來ない事は實に我々百二十名のみの問題でなくして日本陶器三千人の勞働者の死

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

活問題である。否實に全日本三百六十萬の工場勞働者が彼等資本家に永久の奴隷となるかまたは日本國民として憲法に依りて保證せらるゝ正當なる權利を擁護して自主的人格を確立するか即ち奴隷となるか人間となるかの大問題である即ち我等は直に會社の要求を拒絶した

然し我々は猶隱忍して此の問題を以て爭議を爲すことを好まず最も公平なりと考へらるゝ方法を以て愛知縣工場課長に託し調停委員會に附せんことを提議した

而も會社は尚も斯の如く公明なる方法を拒絶し、向迄個人交渉を主張し、專ら卑劣なり切崩し策を講じて暗黑の中に我々の組合組織を蹂躙せんとする態度を改めないので我々も茲に至つては餘儀なく既に百二十人の少數を以て資本金二千萬圓の大會社を敵として此處に持久戰を宣告する實に我等は小さく我等は弱い然し正義は我等の味方である

三千人の同僚の爲に更に全日本の勞働者階級の爲に組合組織の自由を獲得する迄我等はたとへ飢死する迄も戰ひを續ける決心である。全日本の勞働者諸君願はくば微少なる我等の爲に更に勞働者團結權確立の爲に應援を與へられん事を切望する

日本製陶勞働同盟
日本陶器爭議團

新潟縣

農民の爲に我等青年は立つ

無產青年の全縣的組織が來る六月二十二日に當新發田町に於て日本農民組合新潟縣聯合會青年部が生れる

小作爭議の戰ふ度に敗れ、病まし傷つく、小作人を其度每に、農村の青年達は、憎むべき地主に對し憤然と立つ青年の意義、正義の道に血は燃る自由の矛に勇み立つた青年は日本農民組合を背景として、農村を主に其の階級戰を擴大せしめ、老人が青年に變り新しく組織された青年部が農村文化の建設の中堅であり次代の社會の原動力、常に社會の先驅者となり正義觀念の熾烈なる青年が統一ある鬪爭的分子を社會に送り、光榮ある無產階級解放運動の第一階段の叫聲を上げる規約は左の通り

新發田支局

日本農民組合關東同盟新潟縣聯合會 青年部規約

第一章 名稱及位置

第一條 本青年部は日本農民組合關東同盟新潟縣聯合會青年部と稱し聯合會加盟組合員の青年子弟及び農民組合の精神を理解する一般青年を以て組織し本部を聯合會本部內に開く

第二章 目的及事業

第二條 本青年部は新時代の青年として必要なる人格的並智識的修養を計るを以て目的とす

第三條 本青年部は前條の目的を貫徹するために教育研究出版、講演、調査雄辯練習其の他必要なる諸事業を行ふ

第三章 役員

第四條 本青年部に左の役員を置く
部長 壹名
幹事 若干名
會計 二人
會計檢査 若干名

第五條 部長は大會にたて選出し聯合會の理事會の承認を經るを要す

第六條 幹事は大會に於て選擧し部長を補佐し部務を處理す

第七條 會計及會計檢査役は大會にたてこれを選出す會計及會計檢査の事務を處理す

第八條 部長幹事、會計、會計檢査は任期を各一ケ年とす

第四章 機關

第九條 青年部の機關を別けて左の二種とす
一、大會 二、幹事會
(一) 大會は代議員を以て組織し青年部の最要なる事項を協議するため部長は每年一回之れを召集す
(二) 幹事會は部長幹事會計を以て組織し部長之れを召集し大會の協議を執行するものとす

第十條 代議員は各青年部支部を選擧區とし割合は幹事會に決定す

第五章 會計

第十一條 青年部費は大會に決定し加盟青年の負擔とす
但し大正十四年度分は金拾錢とす

農村青年に捧ぐ

今や農村に蹶起する青年運動は燎原の火の如く總てを燒きつくす勢ひであると云つてよい、世人はこの現象を觀てその潑辣たる勇氣その高尙なる理想を觀て賞讃と激勵との辭をあびせるのだ、いや青年それ自身も斯うした心理の下で隆んに活動して居るのであらう俺は斯ふした青年に對してつい文句が吐きたくなるのだ、農村青年諸君よ俺は君を先づ甲と呼ぶことにしやう

甲よ君は俺の斯うした蛇蝎的態度に對して限りない侮蔑を感ずるであらう否憤怒を覺えるであらうだがしばらく辛抱して讀んでくれ給へ、俺は君と云ふ一個の青年を捕えて惡口雜言を吐くのでない、勿論惡口辯駁を加える資格をも有たぬ俺なのだ、俺は農村青年の多くを意味する爲めについ君もその渦中の一人にしたのだ、でをそらく君も其一人として天晴れ青年團員として義務の履行より正規の道を踏む者として恥かしからぬ青年であらう、そして君自身は寧ろ一個の誇張さえ感じて居る位であらう然るに俺が君の昨今の心理狀態を想像しながら其處に何等の意識もなく否激勵もなく寧ろ沒落的逆襲とすることに嘸不思議であらう不可解な謎は其處なのだ、君に對する忠實な注告者として俺は一言の文句を吐くのだいや個人に反省を促すのだ、甲よ君は青年團の正規の內容に對して一度の斷據をしたことはあるまい、それも其の筈なのだ、美酒は人を醉はすからだ君も其の一滴に滿ち醉はされたのであらう、そして今尙も美酒に戀惚て居るてアルコールの夢を貪つて居るのであらう、甲よ冷靜に考へてくれ黎明の鐘は高らかに鳴り響いて居るのだ、酒と娼妓は身を滅ぼし財を失ふと云ふ言葉を知つて居る

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

、であらう君の境遇は否財力はそう何時迄も美酒に憧憬て通せる餘裕はあるまいかと思ふ甲、よ世の中には有產者階級と無產者とのこの二つ階級が對立して絶えざる爭闘を續けて居るのだ、俺は無產者即ち小作人の家庭に育くまれて、常に無產者側の一兵卒として彈丸雨々たる原頭に立つて戰闘して居るのだ、

よ君も日本國民であらういや何處の國民でもよい、兎角國民として家を思ひ國を愛ふる至誠をもつ人間であらう、それと同時に社會否人類の爲めに正義と認識した場合粉骨碎身的努力を拂ふに敢て惜まぬであらう、俺はそれを固く信じて疑はんのだ、甲よ然るに君は彼の美酒の中毒に依つて十年一日の如く人類の正義を無視して寧ろ憎まる有產者階級の爲めに一兵卒として忠勤を勵んだのだ、其の間には君の父も職敗戰として野末の露となつたつたのだ、そして多くの無產軍は屍の山を積み上げたのだ、甲よこの慘憺たる修巷を觀る時何人か一掬同情の涙禁じ得やう甲よ俺は更に繰返し云ふ君等の標語並に叫ぶは大抵想像するに難くないのだ、社會奉仕この文字は純眞なるそして常に何ものかを求めんとして喘ぐ若者には迚も堪えられぬ慾求を刺戟さするのだ、君も此處には少からぬ體驗を嘗めて居るであらう、甲よ世の中は流轉する間斷なる廻轉る太陽にも幾分かの變化を來たして居るではないか、生れたる小兒は世の道を學ぶ、白髮の老人は已に泉下の客となる、君が十年の間敵壘に立つて孜々營々と働いたことは味方に在つて默々として閑日を送るより遙に益ないことであつた、しかし甲よ過去は過去である、幸にして未だ若くして健實な君だ其處に俺は信賴するのだ、名譽とか地位とか利益とかの爲めに働く政策的戰爭の手足否奴隷となることはもう媿めてくれ、本當に人類否多くの社會民衆の爲めに幸福を齎す眞に理想的新社會の建設に鬪ふ一兵卒として働からうではないか俺はそれを切望して止まんのだ。（川崎生）

岐阜縣

我が支局の三週年を迎へ

吾等の先驅なる、水野佐伯兩君は岐阜縣下山間の一部落に在りて製瓦職工の一人として土地の製瓦工場に勤め、自己の境遇を感が見ると共に一般社會の小數の有產者は生活の不安もなく常に贅澤に耽つてゐるに反し、一般民衆殊に、勞働階級は失業の苦痛生活不安の爲に常に悲慘なる生活狀態を續けゐる現象を觀察し、斯の如く甚だしき貧富に懸隔の有るは現社會の經濟組織にけつかんの有るを指摘し如何にすれば貧富の懸隔を均等し共存共榮萬民等しく生活し得らる光輝ある新社會を建設せんが爲に彼等は常に若々しき熱望を抱き日頃其の方面の研究に努めつつあつたが、實際運動に携はらんと思ひ立ち遂に意を決して愛する郷土を後に見て飛び出したのは大正十二年四月上京の後直に鈴ケ森刑塲跡進め本社に入りて、福田氏始め先輩諸氏の指導を受け同志の集團生活を營み約三ケ月の後歸鄕して七月支局を創設し、ソートプロパカンダに勉め支局內部に於ては思想研究部を設け全無產階級の解放を絶叫し且つ官憲の壓迫も受け『進め』も殆ど同志に無代で支局の三週年迎へる共に我が支局を代表して全土の同志諸君に告げるものである。

最後の諸兄の健鬪を祈る

進め岐阜第一支局長　谷川力

岐阜縣下に於ける政治運動の一端

（町政革進會の奮鬪）

岐阜山間僻地の一部落にある下麻生に於ける政治狀態は從來町政の實權は金持とか小資本家とか地主とか言ふある一部の少數有產有力階級の獨占的で在り彼等の我儘勝手なる、自己階級の利益と幸福とを計るのみか。所謂町政の實情であつた。けれ共彼等有力者の築き上げる町律制度とその運用上の奸策にも拘はらず、時代の進展は最早彼等にそれを許さなくなつたのである。今や町民は政治的に階級的に自覺を增して來た。

凡そ一國一町の政治を一部の少數有力階級に委せて置いては到底町民全般國民全般の幸福と利益と發展とを圖ることは出來ないと云ふ事と明かに指摘し。彼等少數有產有力者が如何に町民の利益を無視し如何に苦しめて來たかを意識したのか。當町にヒシ〳〵として沸騰したが、町長選出問題を初めとし過去現在に於ける、官公造林問題及停車場候補地問題、大杉不〇事件紛擾問題等のあらゆる重大問題が暴發したのである。先づ問題の中心たる、町長推薦問題よりあぐれば、當町下麻生町原〇〇〇町長が滿期退職以來缺員にて井戶〇〇郎氏を町長代理とし今日に至つたが、同町民大多數に於て殊に不信任たる、極紛擾きはまる政治家たる、前島〇〇氏は、町會議員の推薦を受け四月七日の町會にて當選すべき段取りとなつて居たが少數町會議員の反對から前島氏は遂に推薦を辭退して以來今だ今日に迄町長の決定を見るに至らなかつたので、反前島一派は此の町長選出問題を動機とし紊亂せる本町政を根本より大改造を計らんが爲め無名の鬪士が一致團結し革進會なるものを組織し三百有餘の町民に贊成を求め、彼等有力支配階級に對抗し且又紊亂せる町政大革進を企て町民一般の幸福圓滿を計らんか爲めに本町の前島丈之助氏を町長候補者とし推すべく運動の火ブタを切つたのであつた。運動は益々具體化し六月十日本町三興株式會社に於て一般町民に如何に本町の財閥的懸代の支配階級者は立憲政治代議政治、輿論政治の美名の〳〵とに大多數の町民殊に勞働階級を無視し來たかを一般社會に一般町民に訴へ、今後本町を如何に改革すべきかの方針政策輿論を聞はんが爲め町政革進町民大會を開催し先づ決問題とし一般町民の意向に反對せんとする、六名の町會議員に不信任案を提出する事を大會に於て決議し彼等に向ひ辭職勸告を迫つたのであるが今や町會議員は民の前に恥をしらざる彼等の議員は一歩も退かずなほも、自己の權勢を保持しせんが爲め、生死狂狀となりあらゆる方法手段に訴へ遂に監督官廳の調停を求め此の紛擾問題を完全解決し町民の鬪爭を鎭壓せしめんと努力を計つたが、今や町民は自覺あり政治的に醒めたる一般町

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

民は監督官廳の調停にも絶對に應ずることなく。革進會闘士は益々白熱化し、本町行政機として役員即ち區長を初めとし以下組長に至る迄此の期を期して一齊辭職し、町民の大多數は右手に彼等有力少數支配階級の横暴きはまる不〇〇を聞いたる秘密の鍵をにぎり、左手に町政不同盟の武器をたずさへ乍ら革進會同志は一般町民の積極的精神を持つて、なほ直接行動迄にも訴へんとばかりの形勢にて正義のモットーの許に闘爭を續けつつある現場面である。

起て、全土の町民諸君よ今や一般社會は改造を絶叫してゐるのである。

町民の諸氏此の紛擾騒亂子にある現町政を根本的建て直し得る者は何人たるや、況や本町を構成する分子でなくて何者がなしうるや、かくの如くに紊亂せる町政を革進するは、吾々の歴史的使命であり急務中の急務である。

我等町民は町民正義人道の旗印のもとにあく迄目的を貫徹する爲めに突進せなければならん。

六月十五日稿　佐伯新助

富山縣

社會主義は農村から研究せよ

苦闘七年、ある者は巡査に、或ひは獄して工場に、同志の人々は離散した。人々は妻を迎へ子を生んで家庭の父となり、やさしい夫となつて、社會運動から退いて行く。然らざる者は牢獄に叩き込まれて長い間、責めさいなまれて、不景氣の中へ放り出された。富山縣に進め社の支局を設置されたことがあると云ふ、その主任とでも云ふ男は今でも『働かざる者は食ふべからず』の進め社のハンテンを着てゐる出獄後の僕が六月號の『進め』を手にして感じたのは、此の頃漸く日本の社會主義運動?が社會主義運動の意義をうすうす感づいたことである。無茶苦茶な大言壯語や、感情論や誤謬理想論や賣名論行爲が『進め』誌上から大ぶん遠退いた形である。無責任な言辭を連ねた阿呆時代から治安維持法の時代へ這入つた爲ほんたうの眞劍が來たのである。今や妄動の時代では無くなつた。喜ぶ可きことは『進め』を田舎の町の店頭で買つたことである。賣名的の野心家の手を通じて講讀したものが、今やその必要がなくなつたことである。

顧みて思へば我や二十有七、徒らに老ひて何事をも爲さず、鐵鎖と脅威と貧困との中に叩き上げられて來た個性は、寧ろ生活を――略ほ――惡む可きものは勞働運動者。社會主義者の黨派爭ひや感情論判である。そう云ふことをする暇があつたら、資本主義社會の僞善や詐僞の事實を分析して公衆に示すに盡力するがよい。さうでなかつたら、もとの『進め社』富山縣支局の城室某のやうに、資本家の手先に降服して、おとなしく默つてゐる方が立派だ。監獄で暗いうちから暗いまで只使ひにされるよりか幾らでもあり得ではないか。『北陸農村運動への一考察』は、有益な文章である。北陸人の氣質を知らんとするものは、淨土眞宗の教義の研究、布教の實際、封建時代の前田が施政をも併せて研究すること、風土や氣候や産物や、農村事情を充分研究することに、注意したい。裏切られたる友よりすら教訓を得て感謝する次第だ。失はれたる知己、大杉榮氏、久板卯之助氏、河合義虎氏、高尾平兵衛君、後藤謙太郎君。我き其他の人々の魂よ――靑嵐吹く砺波の里にて

朝鮮 元山

讀書人クラブは新人同盟に更名

本誌前號の本欄に於て報道したる、大衆教化の機關たる元山讀書人クラブは、設立以來、幾多の困難と壓迫に閉し、常に大衆を對象とし、各方面に亘りて、無限の努力したことは、事實的證明に依つて、世人の周知せらるゝ所である。

然るに、該クラブでは去る六月六日午後三時元山青年會館樓上に於て、臨時總會を開きて、去る六月一日同クラブ委員會に於て決議せられた、名義變更の件を多數會員に依り、新人同盟に變更することに可決し、且つ同クラブ員の提議に依る、執行機關を庶務、學藝部に縮少せんとする案に付き、滿場一致にて可決し、從つて、委員改選をも行つた。而して、規約改正の件は委員會に一任したが、その被選せられた、各部委員の氏名は左の如くであると

一、庶務部、趙炳圭、河東洛、林谷泉

一、學藝部、林石基、永顯、李教夏、南相瓚、李宗敏、金錫明

一、委員代表者、林弼均

無産同志會設立

元山の有志、金植、南忠熙、金大郁、金松鶴、李永權、金相尹、致赫、韓洛叙、崔明鍾等諸氏は去る五月五日元山勞働會樓上に於て、無産同志會創立總會を開き、諸般事項を決議したが、其の主なる事項は左の如くであると。

一、綱領――無産大衆の世界的解放

一、規則――不成文式

一、臨時事務所、元山青年會内　林仕哲

自由勞働相互會生る

各勞働宿泊所から或は勞働部屋から或は富川町から目覺めたる勞働者は此所に反旗を翻して自由勞働相互會を組織した。六月廿三日小石川慈光寺に於いて其の發會式を行ふ、集まる組合員百餘名、其他參會者廿餘名、會の創設以後の經過報告、宣言、綱領後に廿九ヶ條の決議をなして午後六時散會す、近々同組合の機關紙用として『進め社』から『自由勞働相互會號』（リーフレット）出つるはず

同組合本部　府下平塚村戸越五八四番

――啄木――

×

非凡なる人の如くに
ふるまへる
後の寂しさ何にかたぐへん。

×

高きより飛び下りる如き
心地して
この一生を終るすべなきか

×

閑古鳥泣く日となれば
おこるてふ
友の病の如何になりけむ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

農民に訴

谷口直平

曾て、封建時代に於いては士農工商と、たとへ單なる形式と名稱のみに過ぎなかつたとは言へ、かくの如き階級の位置は與へられてゐた。更に我々は歴史を遡つて、遠い原始共産時代にまで考へ及ぶ時、當時農民の實際生活の如何なるものであつたかは、容易に想像つく事である。然るに今日までに及んだ社會の進化は現在如何なる位置と如何なる福祉と如何なる權利と如何なる保證を與へられてゐるか、曾ての自由の子、土の子は農奴となり、どん百姓となり、そして今や全土の無産小作人と成り了せて生命を危く死守してゐるのみである。

現在の小作人――それは『平和と感激の搖籃、何時の世、誰の手に依つても把握出來ない生活の所有者―であつたのだ。而して尙現在全人類の所謂口を養ふ所の生命の保證者であるのだ。然るに天下を横行するブルヂョアジイは此の搾取に報ゆるに糠を以てしてゐるのである。

（一）

最近農村の疲弊を論ずる者は資本家階級、無産階級の兩層から現はれて來た。最近の小作人が如何に苦しんでゐるかと言ふ事は小作人自身は言ふまでもなく、いやしくも普通に正確な目を持つた者は誰しも認めざるを得ない事實である。そこでブルヂョア學者、ブルヂョア教育家も聲を揃へて、農村の疲弊を救へ、と到底彼等の其の聲にては救ひも得ざる事を叫んでゐるのである。

しかしこれは當然である。資本主義社會の牙城は都會に在り、資本主義の發達は都會をして益々繁盛ならしめ、都會の繁盛は農村をして益々疲弊に陥らしめる。之は必然の現象である。資本家は勞働者を搾取すると同時に、資本主義は都會をして、農村を搾取せしめてゐる。第一に地主は往々にして都會人であり、また農村の地主と雖も其の小作人を搾取したる小作料の大部分は都會に入れられて工商業に投資せられる事である。此の資金の都會に於いて都會無産勞働階級を驅使搾取すると同時に都會繁盛の基となる事は無論である。

また資本主義の發展と共に起る中産自作農階級の没落は、其の律を益々增加し、都市膨脹と農村衰亡の差を益々激しくするものである。また農産物と、主として都會に於いて生産される工業生産品との値段の割合の不公平なる事も因してゐると言はねばならぬ。何と言つても比較的多量の勞働力を費して作り上げられた農産物の値段が、其の割合に價値のない工業品より廉いことは爭へない事實である。廉い農産物がどし〳〵都會に流れこみ、割合に高價な都會生産品が農村に入れられると云ふことは農村疲弊の原因の一部を明かに物語つてゐる。

納税等でも都會の商工業者に對して農村の割合が不公平に過重で其一因をなしてゐると思はれる。それに都會の享樂的な生活に誘惑されて農村を逃避する者の年々增加する事實はまた見逃せない。殊に青年の都會入りは素晴らしい勢ひで增大してゐる。是等青年の多くは、現在小作生活の割合のとれない馬鹿らしさを早くも氣附いた、比較的進歩した頭の所有者達なのである。然し、資本主義社會に於て一所貧乏クジを引いて生れて來た者は最後まで貧乏と歩みを共にしなくてはならない。小作人としての搾取をのがれんとして都會に出た農村青年は此處に於いて再び都會の資本家若しくは、農村に於いて搾取されたる資本に依つて搾取されねばならない。

かくて都會には益々富は蓄積され一方農村に於いては右の如き事情の結果益々衰退して行くのである此處に於て、一面都會と農村とは相對立して、一つの鬪爭を挾んでゐることになる。

（二）

事實農村と都會とは其の生産過程に於て、また生産品の對立に於て一つの鬪爭は續けられてゐる。しかしながらそれに依つて、農民はすべての都會人を敵視し都會人は農村を敵視すると言ふことは考へられない。たとへば都會人に米價の騰貴する事が苦手であり、農村には都會に於て生産される工業品の高價が苦痛であつても其の實際最近の如くに米價が高くなつても田舎の小作人は矢張り浮べない生活苦に惱んでゐるし。工業品が好景氣を呈しても都會の勞働者は同じ程度で苦しんでゐるのである即ち唯景氣のいいのは資本家や地主達ばかりで、小作人や勞働者は何時も同じく不景氣であるばかりなのだ。そしてまた工業品の騰貴は勞働者のより高度なる搾取律を意味し、米價の騰貴は小作料の値上げ、肥料其の他の材料及生活資料の騰貴を來たす基となるのである。つまり勞働者といひ小作人といひ唯其の居住地と名稱を異にするのみで無産者として搾取される點では共に何等の異なる處もないのである。都會と農村との鬪爭の形をとるものは地主も資本家だ。しかも最近その地主も次第に資本化し、資本家の農村蠶蝕は、小作人と勞働者との賃銀奴隷化を益々顯著ならしめつつある。また都會勞働者と雖も農村出のものが過半數を占め小作人の子であり、兄弟である。此處に於て農村小作人と工場勞働者とは何等鬪爭すべき點はないのである。敵は唯資本家あるのみである。（未完）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

支那紡績罷業の暴動化に就て

在北京　王子言

上海や青島の紡績罷業はそれが暴動化した結果、列國の環境を巧にとつて行かねばならぬ事情の下にある現政府は外國資本家の嗾使に泣く自國勞働者の背後から鐵を臨して彼等に奴隸たらんことを強要してゐる。

彼れ等は成る程暴動化した。此には私も世間なみに感心しない。然し本國勞働者の汗血を絞つた丈けで飽き足らず、より一層絞り易くより一層絞りでのある隣邦の兄弟等を嗾使終に此に至らしめたかと思へば

青島の罷業に就き其の眞相を究める爲め私は五月二日彼の地に赴いた。

私は今罷業の經過だとか私見だとかをクダ／＼述べる代りに、新聞通信の種の出どころ、罷業者の要求、及其根據となつた待遇上の問題、解決條件、幹部から私が踏査後れた手紙の一節、それから在青紡績會社數年來の配當表を紹介して一切の批評を讀者諸氏に委ねることにする。私は之れが一番簡單に推斷に上海、青島の問題の現狀を語ることになると思ふ。但し前提として左に青島における紡績罷業の大勢を掲げて置く

	錘數	一ケ月産額	使用支那人
鐘紡	四、〇〇〇〇	一、三六七	三、一九八
富士	三一、三六〇	二、五五〇	二、四〇〇
長崎	二〇、〇〇〇	一、〇五〇	一、八〇〇
大日本	五八、〇〇〇	四、二五〇	四、五〇〇
内外	六三、〇〇〇	四、五〇〇	四、〇〇〇
日清	二〇、〇〇〇	一、二〇〇	九一九
華新	三二、〇〇〇（現運轉 一五、〇〇〇）	五五〇	二、〇〇〇

此内華新のみが支那人の經營で罷業のあつたのは四方といふ地方に集まつて居る大日本、内外、日清の三社だけである。

（一）新聞通信種の出所

最初に四方の罷業團本部を訪ねた時一幹部はこう云つた

「罷業に就て日本の資本家なるが故にと云ふ意味は全然ない。吾人は吾人の生活の爲め闘つてゐる。吾人は吾人の要求や態度に關する誤解に困つて居る。日本側から誰れか來て吾人の實狀と叫びを見聞せんことを希望して居るが罷業以來二週間曾て訪ねてくれた人は無い」

私は翌日青島の二三記者に會つた時早速聞いて見た

「行つても見ないで危險／＼といふのが誤解のはじまりである。一體諸君の報道材料はどこから得て居るのか？」

彼れ等の答へによれば領事館訪問と毎日商業會議所で會社側の責任者と會見する……之れが日本全國に傳はつたニウスの出所であつたのである。

（二）要求條項十四ケ條

一、工會（組合）を正式に職工を代表する機關と認むること

二、日給十仙増

三、請負賃銀二割五分増

四、夜業食費倍加

五、公傷には醫療費外賃銀をも支給

六、賞銀沒收制の廢止

七、宿舍料の免除

八、食事時間を一時間に延長

九、日本人の毆打罵詈の禁止

十、職工の處分は工會の同意を要す

十一、罰金收入を工會に交付して職工の教育費に充つ

十二、工會の代表を解雇せず

十三、罷業期間の給料支拂

十四、會社が各條承認の時は保證人立會で契約に調印

（三）要求の根據たる待遇上の説明

一、物價は兩三年前に倍加して居るが最低賃銀は今でも十八仙である

大日本紡はいふ最低は二十一仙で平均四十三仙六厘だと、然し假りに四十三仙六厘として一日も休まず皆勤手當五分を貰つた處で日曜を除けば一ケ月十一元四十五仙にしかならぬ

二、工場に出られぬ場合許可を求める、許されぬ、已むなく自ら休む。そうすると日給額の倍額を控除される。人の多い時だとすぐお前は要らぬと宣告される

三、出勤十五日に滿たぬ時は總賃銀の二割五分を控除される

四、物價騰貴の結果會社は夜業の食事を廢して三仙くれることにした（大日本だけ）が三仙では饅頭一つにしか當らぬ。

五、賃銀の支拂ひは月末に締めて十五日前後にならぬと實行しない

六、元以下は小洋で計算し十仙以下は銅貨で計算する。一ケ月八九元の收入者にとつて之れは非常な苦痛である。

小洋とは小銀貨のことである大洋（正式の銀貨）一元は今日の銅貨二百八十五枚に當るが小銀貨の額面で一元並べた處でそれは二百二十枚にしかならぬ。今會社が八元九十五仙の賃銀を拂ふとする。八元は大洋だが九十仙は小洋、五仙は銅貨で勘定する。從つて之れを大洋で計算するとしないで既に銅貨七十二枚の開きを生ずる。會社側は多數の人への支拂ひをいち／＼大洋に計算することは煩に堪えぬから端數はなるべく翌月にまはす樣にして居ると答へた。

七、不幸其他の理由で暇をとるにしても正式の許可を得るまでには少くも三日はかゝる、それに賃銀の支拂ひがまた少くも數日かゝる。從つて急ぐ者は現在を心配する者は放棄して歸る又支拂つても出勤十五日未滿の時は二割五分を控除される

八、食事の休憩は三十分だが機械の運轉を中止しない。だから日本人監督に氣兼ねして多くの少

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

年工（全體の約五割）は持場から離れない。

九、十二時間の勞働で少年工など居眠りも出る、

女工の監督として纏足した足を出させるが之れは實に支那婦人最大の屈辱なのである。之の侮辱的刑は新任の日本人へ紹介の爲め常に利用せられる

十、獨身宿舍を改善しなければ夏など自分で自分を人間と思はれない。

宿舍は一室、一室半、二室となり獨身者は一室の方へ八人定員で收容される。間口八尺奥行二間半低い天井の室である入口四尺縦土間になつて居り床にはアンペラ（の蓆）が敷いてある。晝夜交代だから四人宛寢るのだが八人分の私有財産は少くも床の二割を占領する。從つて四人も縱には寢られず横に然も右と左から差し合ひになつて寢て居る室代は日。一人十仙宛即ち一室八十仙

十一、衛生設備は全然なつて居らぬ、便所も湯呑場も一つ所で湯は發電所の生ぬるい餘り水である

（四）解決の條件

一、職工一人に就き一ヶ月メリケン粉一袋に限り市價より廉賣す

一、休憩時間を十五分別に與ふ

一、飯代として一仙（從來三仙）増す

一、五日内に復職せる者には更に昨の二日間日給の償額を與ふ尤も會社側は關係者たる領事に對し、工場は職工に對し從前より特別に優遇す

二、成績優良な者には臨時獎勵す

三、償與清算は成るべく早くす

四、從來風紀衛生に遺憾の點多し今後改善し工場の規則を遵守すべし

との契約書を差出したが要するに十四ヶ條要求を提げて二十一日間苦鬪した結果はメリケン粉月一袋の安價と十五分の休憩と飯代の一仙增しそれ丈けである。讀者諸君其間會社は執拗の逐鑿を要求し職工側に同情した青島日々發行停止を求めて居るのである。

（五）工會代表からの手紙

（前略）吾人は滿足な結果なくして一休することになつた。然し我等は必ず最後の目的を遂せずにはおかぬ。吾人は今次の戰鬪に於て、詭詐奸計を充分に味つた。工會組織に對する御意見には悉く賛成、別封の如く吾人は既に工會並に同盟合會を組織した。會社や官憲が如何に壓迫を加へやうとも吾人は吾人の生命を保持すべき唯一の武器たる此の工會は何處までも支持し離れても離れても戰鬪をやめぬ。代表五十餘名は自發的に辭職することになり會社は九ヶ月分をくれた。然し吾人は一人として青島を離れず本來の目的達成を期して居る。

（六）各紡績會社の配當表

	資本	九年上半期	九年下半期	十年上	十年下	十一年上	十一年下	十二年上	十二年下	十三年上	十三年下
日清	二一、〇〇〇	割 四、三〇	三、〇〇	三、二〇	三、二八	三、二八	三、六〇	三、四〇	一、二〇	一、六〇	一、六〇
內外	一六、〇〇〇	一六、二〇	六、〇〇	六、〇〇	六、〇〇	六、〇〇	六、〇〇	五、〇〇	四、〇〇	三、〇〇	
大日本	五二、〇〇〇	六、〇〇	三、〇〇	三、五〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	二、五〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇
富士	四五、二〇〇	一三、〇〇	三、四〇	三、〇〇	三、五〇	三、五〇	三、五〇	三、五〇	三、〇〇	三、二〇	一、二五
鐘紡	六〇、〇〇〇	七、〇〇	七、〇〇	七、〇〇	七、〇〇	七、〇〇	七、〇〇	七、〇〇	六、〇〇	四、八〇	三、八〇

讀者諸君に告ぐ

近頃『進め反動化す』の聲が折々巷間に於て聞かる。とは我が社の研究會に集まる、最も熱心なる若くして現はれたる階級戰士達の笑ひつゝ語られる所である。

勿論この惡聲を流布するものは堺閥所謂日本共産黨及びその末輩共である。彼等の『進め、反動』の理由とする所は、曰く、高畠氏の原稿を『進め』誌上に掲載せること一つ、布施氏山崎氏の如き、立場のなき‖彼等は兩氏を現在、無理にでも斯く見なければならぬ‖、それ迄、兩氏に弱點を握られてある。‖エタイの知れぬ人物との關係からであると云ふ、然して彼等は例の排斥せられんとするやそれに先だつて排斥すの戰法をもつて、早くも兩氏排斥の火の手を上げて、例の松岡某の如きは、小石川某所に於て、山崎氏を攻擊するに、『山崎は官憲に材料をやる』と云ふが如きトテツもなき口の裂け方をもつて、その汚き惡舌を吐き出しつゝある。

我等は斯の如き惡魔漢を憎むに足る充分なる熱意と正義心とをもつものであることを一言諸君に申し上げておくものである。

次に彼等堺閥が、高畠氏を攻擊する所の醜態さは、自らが自らの罪惡の影に向つて吠えつゝある、怖えたる狂犬の醜態さであることを一言しておく。

それに偶々世間的に反動團體をもつて鳴る大化會に高畠氏が關係せるの故をもつて、大化會即ち高畠氏、高畠氏即ち大化會と見られつゝあるを好期とし、進めを撲滅する、この時にあり期逸すべからずとなし、彼等が吾人に投げたる惡罵のみ。

最後に吾等は吾等の誌上に高畠氏の推薦を戴いたるは、高畠氏をもつて日本に於いて他の追從を許さざる、マルキシズムの學徒と目するが故、只その教へを乞はんとせしのみ。

吾人は教へを乞ふものは、教ふるもの丶一切を行はんとの不自由あるを知らず、云はんや、其の一切を、反問す、高畠氏を不手に攻擊ずる、ゴマのハイ的主義者、諸君諸君は未だ曾て高畠氏のマルクス資本論の解說を讀まざるや。

諸君は眞に民衆をして高畠氏のあの解說に民衆をして近づかしめざらんと努力するや、高慢なる諸君、諸君の中に、高畠氏のそれの如きありや。

× × ×

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

アメリカ奇談（二）

――ある寫眞結婚――

前田河廣一郎

寫眞結婚と云へば、誰しも近代人的な微笑を洩らすにちがひない一枚の寫眞が、二人の男女を三十年も四十年もの共同生活を營ませると思ふと、確に皮肉な話である。だが、つぶさに調べて見ると、寫眞結婚はさう單純な構成分子だけの取り持つ緣でないことがわかる。一枚の寫眞――それは、確に事件の焦點であるにはちがひないが、その一枚の寫眞が映されて、求婚者の手へ渡るまでにはいろ〳〵な有形無形の手續きが必要である。更に、求婚者の手へ寫眞が渡つてからも、事件にもつと複雜になることも事實だ。

私は、玆にアメリカにゐる同胞の一人が、どんな風にして寫眞といふもの、關する範圍內に於ては頗る完全な結婚を遂げたか、そして寫眞といふもの、關せざる範圍に於ては、一つの悲劇を形どつたかといふことを記錄して置きたいと思ふ。

アメリカのカリフオルニアに、一人の日本人があつた。彼は根が惡人といふほどの人間ではなかつたが、長いことアメリカの社會生活の皮相な空氣に感染した結果、非常に沸遊心に取り憑かれ、その懶惰な習慣になつて、どうにかして働かずに食はうといふやうな射倖的な氣持だけが募つた男であつた。勢ひ、彼の執るべき道は賭博といふ方面であつた。カルフオルニアの諸地方に汗水たらして働いては五年に一度位の大收穫に金貨や大物の札をポツケツトへぞくぞく詰込んで都會へ飲みに來る農耕者を、好個の標鳥として彼は網を張つて生活を續けてゐた。

この男が、ある動機から妻君が欲しくなつた。その動機といふのは、今更說明してしまつては面白くないから後廻しにするとして、偖て、この男はどんな風にして妻君を日本から呼び寄せたか、といふことは一寸面白い話である。彼のごろ〳〵してゐる安下宿には、大勢の日本人が出入りしてゐた。そこで偶然にも知り合ひになつた男から、彼は日本のある地方の農家に一人の娘があることを聞いた。後でそれを話した男は、その農家の家にはかなり厄介になつたこともあるので、いろ〳〵取り入つた上で、件の賭博者は、甘くその男を籠絡した揚句、その娘と自分との紹介者たらしめる約束をした。

彼はその都會のアメリカ人の住んでゐる街へ出て、とある富豪の邸宅の門前で自分の寫眞を撮つて貰つた。身裝はきりゝとした商賣人らしいサツク、コートを着て、杖などを携へて、一見紳士らしく見受けられた。彼の姿には、アメリカ文明のドル的な代表のやうな太々の榮華さへ與へられて居つた。この寫眞は出來上がると、直に件の娘さんの手へ郵送された。しかも、同じ村から渡米して男の折紙附の成功者といふことで、娘さんの一家も少からずその寫眞には滿足を擲つたのである。娘さんの氣持は、かく云ふ私には勿論わからない、或ひはその娘さん自身にもわからなかつたかも知れないのであるが、何れにもせよ、その寫眞の郵送されたときから約半年ばかりで、或日、娘さんの姿がひよつくりサンフランシスコの埠頭へあらはれたのであつた。しかも彼女は相應に持參金などゝいふやうな物さへも所持して來たのであつた。寫眞の男が、時間と空間上の約束を違へずに、ちやんとその棧橋で彼女を待ち受けてゐたことも無論の話である。二人は、その半年の間に、籍を移して、天下晴れての夫婦となつてゐたのであつた。

女の金のあるうちは、二人はかなり贅澤なホテル住ひをしたり、旅行へ出たりして樂しく暮らすことが出來た。しかし、新しい妻君がどんなに家庭生活を主張しても良人は頑として寫眞の背景にある立派な邸宅へ歸ることを許さなかつた。のみならず、彼は一定時間に外出をこそすれ、夜は大概遲くどこかしら正體に就いてゐるものらしく思はれない所があつたのである。疑惑に疑惑を重ねた娘さんが、相談對手もなくて泣いてゐるある晚、同じ村の渡米者が訪問した。彼はしたゝかに酩酊してゐた。彼は酒で良心の苛責を覺めようとしてゐたのであつたが、ついに包み切れずに、女へ一切を打ち明けた。

「御逃げなさい、貴女は非常に惡い奴に引かゝつてゐるんです。」

さう云はれて、自動車を呼んでさへくれたのであつたが、若い妻君にはそこを逃げてどこへ身を潛めるといふ決心がつくほど、外國の事情や地理には委しくなかつた。そして、その內に悲劇は急轉直下して、彼女の身の上を見舞つた。

それから二三日して彼女は、自分の良人のために、料理屋へ賣られた。――彼が最初計畫したことと寸分も外れないで。

註解『寫眞には背景があることを記憶すべし。』

△　▽

――禁酒論の立場――

ハースト直系の機關新聞、ニユー、ヨーク、イーヴニング、ジヤーナルと云へば、世界に名だたる黃色紙であつて、惡辣な論調をもつて兎角米國の常識論や時の市民に楯を突くことによつて何よりも有名である。大統領選擧前のジヤーナルは、實に鬼面人を嚇かす底の論說を揭げて、讀者の耳目を聳動させようとするのは、アメリカの年中行事の一つになつてゐて誰一人怪しむ市民はないのである。

この新聞の、最も殊勝らしく固持して手離さぬ持論に二つある。一つは排日問題で、もう一つは禁酒論である。

ウインゾル、マツケーといふ論家の排日漫論と相待つて、その頃强硬なる排日論は、讀む人が普通の日本人ならば必ず切齒扼腕し、又それが小學校卒業程度のアメリカ人ならば卓を叩いて共鳴拍手する不思議と、わけのわからぬ煽動者に喜ばれる新聞が、イーヴニングジヤーナルなのである。

このハースト御手盛の宣傳機關に、この頃は大部金を儲け出して新聞の買占めなどをし始めた、有

力なアーサア、ブリスベーンといふ、日本の政府筋などからは惡魔のやうに思はれてゐる主筆がある。大の禁酒論者であつて、彼の僞の議論は、ヴイリアム、ゼニングス、ブライアンのやうな詭激な禁酒論者の立論などよりも鋭鋒當るべからざるものがあり、蓋し這般の全米禁酒法令と稱せられるヴオルステツド法案をして、今日の（表面丈けは）力あらしめたには彼ブリスベーンの論議も亦與つて少しとはされなかつた位なのだ。

ところで、この米國一流の禁酒論者のところへ、親しく新聞の上の用件で訪問してゐた、私の友人の話では、かうなのである。

『あのブリスベーンといふ奴は、非道い奴だよ。あんなに禁酒、禁酒つて毎日騒ぎ立てやがつて、その癖自分は、その禁酒論を書きながら、ちびり〱ウイスキーを飲んでやがるんだ。彼奴は、酒がなかつたら、禁酒論の一行も書けない奴だよ。』

註解『世の中に二人の資本家がある。貧民に酒を與へる者と、酒を與へぬ者と。』（二、完）

荒木從繩君の下獄

—全士の同志諸君へ—

千藤美明

今軍隊の目的等はかく必要もなく分り切つたことであるからこれは止す。

るのである。

吾人はブルヂョアのための軍閥主義には絕對に反對するけれども軍隊そのものには反對せない。

軍隊は速かに階級意識に目覚めなければならない、彼等が銃劍を逆にしてプロ社會建設のために國家機關を奪取し、更に彼等の組織されたる權力を以てブルヂョアの反革命軍を粉碎し完全なる無産階級獨裁政治を齎しいことを祈つて居たのである。

友人荒木從繩君は山陰松江市の歩兵六十三聯隊に入營し克々として務力して居たのである。

丁度、五月初旬頃より當地の同志が政治研究會支部創立に奔走して居る時、荒木君も日頃熱心のあまり進んで入會し、委員として研究を重ねて居たのである。

それを拔け目のない憲兵はかぎ出し、荒木君は軍法會議にまで廻すべく運び、研究會の事務所に宛てゝ居る福田理三郎君の家は二回までも家宅搜索を行つたのである福田理三郎君も數回召喚せられて取調べを受けたのである。

六月四日夜行の山陰線にて上阪の途次丁度荒木君が憲兵にまもられて姫路の刑務所に廻されるのと同行した、けれども荒木君も多くは云はないし、俺も多くは語られないし、事件の展開についてな未だ判らない譯である。

現在荒木君は姫路市野里門外第十師團衛戍刑務所で淋しく刑の裁かれるのをまつてゐる、實に同情の念を禁じ得ない、今は君の健在を祈るのみだ、其後の樣子が未だ分らない、半狀に接し次第發表する考へだ、全士の同志諸君よ壯なる荒木君の爲めに健在を祈つて下さい。（六・一・一、）

疳癪の種

永田繁澄

◇檢事の言

去る日、大阪地方裁判所で東健吉の公判の時、吉村檢事は

『物質萬能の世とは云へ安い俸給で社會の爲に働くのはサラリーマンの權威、誇りである』と

一體社會の爲とは何だ？云ひ換へるならばヨリ以上、資本家に盲從せよとの事だ、資本家に盲從した結果如何に吾々の生活か貧苦のドン底に墜落されても奴等は他所吹く風と、知らぬ顏、されば愈々益々貧苦は烈しくなる、その結果は死だ死だ、すればサラリーマンの權威誇りは貧苦のドン底に墜落され、然して餓死するのみだ、あゝサラリーマン悲哀！權威！誇り

◇警察の御叱り

去る日、警察から一寸是非來て吳れと云ふので、行き度くないけど遂々行つた、迚も良い事ぢやないとは知つて、處が高等係主任と書いた札の下に居た男、

『君達か態々ロシアの勞働者の着るルパシカなどを着るから尾行でも着けなくちや』と、警察とルパシカと何んな關係があるか尋ねたい、着物は何を着やうと俺の勝手だ、着物代を一圓だつて奴等から補助して貰ふぢやなし要らぬ御世話だ、ルパシカを着る人に尾行を付けるならば、隣の五ツか、六ツの子供にも着けちや何うぢや此んな男が所謂高等係主任とは一如何に警察の奴等が低級な頭の所有者であるかを如實に暴露して居る。

家と警察

去る日聞きたけど、此れも去る日態々俺が二階を借りて居る處へ、階下の婆さんに、私服の奴が來て

『俺は警察の刑事だ、お前の二階に居る永田は社會主義者だ、あんな奴に二階貸したら今に見ろ大事が出來るぞ、又近頃は何んな奴が永田を訪問するか、白狀しろ、嘘を云つたら、爲にならんぞ』

と脅迫した相だ、脅迫は反抗心の花だと云ふ事を知らんのか。（完）

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

進め社便り

徴兵検査のこと

◆六月上旬徴兵檢査で故郷に歸つた。親父と母親は冷い涙を流して泣いてゐた。社會主義者の俺が惡いのか、社會か、親か、それとも周圍の人々の冷い目か、知らない兎も角俺は苦しかつた。俺は歸郷二日目の晩たうたう再び逃げ出してしまつた。

◆徴兵檢査官は社會主義とは惡いものだときめてしまつてゐる。否それまでもない、社會主義者は殺して仕舞はなくてはならないといふばかりの其の目つきだつた。物すごい一段論法で。

◆俺が檢査を受けてる間に、憲兵が俺の進め二三冊入つた鞄を檢べてゐた。俺が見附けて『社會主義者とは殺人犯人とでも思つてゐるのか、そして俺の持物といへば爆彈の類か秘密出版とでも思つてゐるか。まあどんなものか見て解つたらう』とどなつたら答へに窮しだ。

◆其の後所轄憲兵隊から二三回社に檢べに來た。（直）

生滅の小車

◆滅びるものをして滅ばしめ、榮ゆるものをして榮えしめよ。生滅はそれうつし世のならひ。

◆搾取と壓制の上に基かれた太平三百年、ロマノフ榮華の夢も哀れエカテリンブルグの朝露と消え、赤旗今や全露に飜る。

◆滅びるものをして滅ばしめよ、榮ゆるものをして榮えしめよ。それ榮華は朝露の如し。

◆滅ぶるものは滅ぶべくして滅び榮ゆるものは榮ゆべくして榮ゆ。

◆春秋の風おもむろに來り、おもむろに去り、その おもむくまゝに因果の小車も絶えず生滅の相を示す。

ゆがみ玉

◆電氣玉の中から丸の内一帶見ればゆがんで見えるよ！ゆがんで見えるよ。

◆コンクリーの七階も赤煉瓦の五階も、窓から顔出した白粉の女も路行く人も……。

◆ゆがんで見える筈だよ。電燈玉だもの。

◆人の目玉も場所と境遇が違ふと別々に物が見えるらしい。ブルから見たプロ、プロから見たブル。巡査、商人、憲兵、乞食、醫者、議員、とそれぞれの眼から一つのものでもそれぞれに見えるらしい色眼鏡をかけれや尚更のこと。

◆所が近代人が、色眼鏡でもかけなければ、しかく左様に、物が見られないと云ふ程色眼鏡目玉に出來てゐる。

◆主義者の總てがその限りに非ずと誰が強辯し得よう？

◆ルソーになぞらへて俺が叫ぶ、人間の目玉に還れ！

見龍在田

◆見龍田に在り、雲を得て天に登る、雲を得ずば一生地に在りて地もる可。誠實の志或は山師根性なくとも、あたりまへの人間となつて、耕し、或は勞作してゆきたいものだ。

◆田に在るものは見當る筈もないがざつと見て、見龍らしいものゝ居るはずも居よう筈もないが、ただ居るものは、奴隷の如く飢えた民衆のみ。

◆我等の聖經によれば、『民衆飢えて地に伏すと雖も一度立てば全世界を得る』とある。（小助）

大分熱くなつた

◆地球が明日に明日にと、コロガツテ行くのも可なり早いものだ。『進め』が東京に越して、もう七ケ月二百十日にもなる。此の長い間に地球の上には、雪が降り霙が降り、それが溶けてまた、春雨が降り菁菜が生えた。

◆此の可なり長い間に於いて、お互に社會の轉がつて行くべき道の爲めに、どんな道路工事をしたかといふやうな、お互の功名爭ひから來る喧嘩腰の『感情を抜きにした』と前提をして書出されてあるケチ臭い小理窟の肥料から生え上つて來る如斯素晴らしい論議にはおかまひなしに自然は着々に熱の太陽を浮べて七月はやつて來た　見ろ醜惡なブルヂョアのドテッ腹にもパンを求めて集まるプロの額にも隅田のドブ川にも太陽は直角に光を投げるを

▲此の地球の轉がつて行く間た間たに挾つて轉がつて行く社會にも變化のない譯はない。我等の運動の上にも、普選の治法の悲喜劇物か日比谷座に於いて、加藤高明と其の一黨に依つて面白く演ぜられ、幸運の村木君の獄死に次づいて後藤君の狂死、中濱君一味被告等しく和田、古田、倉池、新谷諸君の死刑の判決、總同盟の分裂、政治研究會の擡頭、日本共產黨（？）の判決、要するに分岐點に立てる日本のプロレタリヤ解放運動も今後益々多事であらう（渡邊）

◆俺達の舌鬪は最後に勝てばそれで足る、惡辣も潔白もない。潔白な戰術があり、それに依つて得らるるならば更に結構だ。しかし下劣なりともそれに依つて得らるるものと認むるならば我等は敢て厭ふ者ではない。唯我等は我等の得べきものを得るまで勇敢に鬪ふものである（谷直）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

無産階級法律問答

布施辰治

無産階級運動者の正當防衛論

一

（問）正當防衛に付いて聞きたいと思ひます、社會主義者が反動團體例へば國粹會の如きにその自宅に襲はれた場合刺殺又は射殺しても宜いでせうか。尚此の場合向ふで棍棒の如きものを持つて居て短刀又はピストルは持つて居なくても、正當防衛になりますか。（市内外三河島生）

（答）刑法第三十六條は正當防衛に關して『急迫不正の侵害に對し自己又は他人の權利を防衛する爲め止むことを得ざるに出でたる行爲は之を罰せず』と規定して居るが、刑法的に觀た無産階級運動其のものは、一種の正當防衛である。無産者は資本主義の搾取制度は、無産者個々の自己又は他人の一切をも包容して無産階級の人間的權利を蹂躪する不正の侵害であつて、無産階級現在の生活難は、マサに其の侵害の窮迫した急迫なるものがあるのであると云ふても敢て其の比喩を失しては居ないであらう。

私は斯ふした見地から、特に正當防衛の問題を、社會運動者が反動者を『殺す』か『殺さるゝ』かの瞬間に纏ふ疑問に於て、生きる權利の主張を明かにして置きたい。

二

治安の維持を名として、白色公然特權の維持を目的とする、治安維持法を制定實施した、ブルジュア議會の協贊に依つて、ブルジュア政府の制定實施する現行法律を法律正面の看板通りに解釋するのは、些かクスグツタイ如くな感が無いでも無いが、法律表面の看板から觀た刑法は、決して人を殺す爲めの刑法では無い、刑法第百九十九條に『人を殺したる者は死刑に處す』と書いてあるのも、決して人を殺したものを死刑にする爲めに出來て居る條文では無い。人を殺したものは死刑にすると云ふ規定に依つて、人を殺させまいとして居るのである。

刑政學者の言を藉りて言へば、刑法は活人の法であつて、殺人の法では無い、人を殺したものを死刑にするのは死刑は小の蟲を殺して大の蟲を生かさんが爲めの必要的罪惡だと云つて、其の存置を主張して居るのも其の趣意がある。

茲に刑法は人の生命を保護せん爲めに、人の生命を斷つと云ふ死刑の存置を認める趣意を強調として眞に生命の保護の爲に必要な限度に於て、所謂必要の罪惡たる直接行動的殺人の正當防衛を許して居るのである。急迫不正の侵害を加へて、人の生命を危ふせんとする事は、元より犯罪である。刑法が國家の權力に依りて、其の犯罪を處罰するに何なの不思議は無い、けれども、刑法の左謀した犯罪を處罰するのは、急迫不正の侵害を他人の生命に加へんとする者に處罰を加へんが爲めの處罰では無くて、急迫不正の侵害に依つて、生命を危ふせられんとするものゝ保護が目的である、と同時に、正當防衛は生命保護の直接行動である。之れを詳しく云へば、刑の目的の應報主義とか、保護主義とかに關する色々の議論もあるのであるが、現に急迫不正の侵害に依りて、生命を危ふせられんとする者の保護から觀た、正當防衛の直接行動權とは、應報主義も保護も、共に國家の權力を通した間接の刑の目的論であつて、正當防衛の現實論と桁が違い。正當防衛の現實論とは既に生命を危ふせんとせられて居るものゝ保護にある事を疑はない。故に刑法が急迫不正の侵害を加ふる者を罰するのは、其の急迫不正の侵害を受けんとするものゝ、現實的保護を條件として居る事を忘れては爲らない。正當防衛現實論とは桁の違い應報主義とか保護主義とかの處罰は、現實に他人の生命を侵害し了した者がある場合に、將來そうした侵害を加ふるものは、こんな目に遭はせるぞと云ふ犯罪者の處罰に依つて、未だ侵害せられざる他の生命を保護するのであるから、出來る事あらば、現に侵害せられんとする生命を保護する爲に、現に急迫不正の侵害を加へんとして居る。犯罪者の處罰を期して居るのである、此の爲に刑法規定の犯罪者を處罰する手數を規定した刑訴法は、現行犯に關する特別規定を設けて、普通なれは司法警察官でなければ犯罪者を檢擧したり、逮捕したりする事は出來ないのであるが、現行犯の場合には警察官でなくとも誰でも犯罪者を押へる事が出來るようにして居るのだから、被害者自ら現行の犯罪者を逮捕する事も出來れは被害自らの被害回復をも許して居る、そうした精神を強調としたものが刑法正當防衛の直接行動であつて、現に急迫不正の侵害を加へんとする者に對しては、其の急迫不正の侵害を受けんとする者自身が、其の急迫不正の難を避ける爲に自ら急迫不正の侵害者を逮捕して處罰する事を許される意味に於て、之を殺害しても罪とは爲らないといふ事にして居るのである。故に正當防衛に關する法の精神は生命の保存に必要なる限度に於て、苟くも自分の生命に急迫不正の侵害を加へてするものがあつたら、其の侵害に除去する爲めに、如何なる事をも──即ち其の侵害者を殺害しても良いと云ふ事に爲るのである。

三

舊刑法は其の第三百十四條に於て、明かに『生命身體を正當に防衛し已むことを得ざるに出て暴行人を殺害したるものは自己の爲にし他人の爲にすることを分たず其の罪を論せず』と規定して、非常の場合に於けるが如き正當防衛を肯定して居る、けれども、正當防衛の殺人が許されるか、許されないかの第一條件たる急迫不正の侵害ありたるや否や、第二條件たる不正の侵害者を殺害するより外に已む事を得ざる場合なりや否やに關する判斷を、防衛者自身の主觀に依つて決すべきものとするか、或は其の狀況に對する社會通念の客觀に依つて決すべきものとするかの議論がある。極端な設例を以て判り易く主觀客觀の議論を解說すると、一般の社會通念から觀た狀況としては、一見オモチヤのピストルを以て冗談に殺して仕舞ふぞと云はれた場合でも、非常な臆病者が眞劍を込めたほんとうのピ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ストで愈々ヤラレルと思つた場合には、正当防衛の為に其の殺害者を殺しても構はないと云ふ事に為るのであるが、又、大ダンビラの兇器を提げてアバレ込んで来た状態は、何人と云へども其の白刃下に惨殺せられるであらうことを恐れなければ為らない場合でも、本人は柔道剣道の達人で少しも其れを恐れないアバレ者の三人や五人はと思ひながらも、癪に為るからヤツ付けゝ仕舞へと云つた調子でヤツ付けて仕舞つた云ふ如くな場合に於て、前者の主観主義もヒドヒし後者の客観主義もヒドイ事に為る、判例としては、客観主義と共に之を其の儘には採つて居ない、矢張主観的にも急迫不正の殺害を避くる為めに已む事を得ざる殺害者の数人が必要とされ、客観的にも一般の社会通念が、彼の場合にあゝした状況では、彼ぶ云ま人間なのだからヤルかも知れない、ヤツタかも知れない、又ヤラレルと思つた事に無理がないと思はるゝ程度の場合で無ければ為らない。從つてそうした判断は相手の平生にも依り、其行為にも依る、又殺害者の人の所属階級の主張にも依る、又持つて居た兇器の性質にも依りて決せられる、と同時に兇器は持たなくとも相手がメリケンの名人だと云ふ事であれば、拳を振り上げられた丈けの不正殺害を恐れた正常防衛権の行使が許される場合も有り得ると信ずる。要は其の瞬間に其の人、其の時、其の行き懸り等一切の事情に依つて決せらるべきものであるが、大体に於て、特殊な臆病者で無い者が、真に急迫不正の侵害を加へんとする相手方を殺害するより外に、自己の生命を完ふする方法無しと信じた主観の正常防衛は、客観的にも肯定せらるゝものと見て間違が無いと考へる、故に無産階級運動から観た正常防衛は、生命権の強調に許されたる直接行動論である

政研は政治結社にあらず

軍人、婦人、未成年者の加入も自由

問　私の友人甲が政治研究会の支部を作り、それに他の乙と云ふ友人が加盟して支部の執行委員になつたのです、乙は現在姫路に在り歩兵上等兵です、その為めに乙は軍法会議に廻はされて體刑を科せられるそうです、甲は憲兵隊から自分の自宅も兄の家（甲の兄の家）も数回に亘つて家宅捜索を受けました、そして未成年者を研究会に入会させたと云ふので罰金刑に処せられると云ふ話です

それで『乙はどんな法律で罰せられるのか、軍隊に入ると軍隊以外の団体に加入することは出来ないのか』と云ふことが一つと『甲はどんな法律に依りて罰せられるのか』を御教へ願ひたいと思ひます（樋口生）

（答）質問の事件は今姫路軍法会議に廻はされて居る、現役上等兵荒木従懇氏の松江市政研支部加入に極度の神経を光らせた警察当局が、政研支部責任者の家宅捜索を行つた問題であらうと思ふが、私の聞知した同事件の概要は、神戸の労働争議以来無産階級運動の闘士として[illegible]せられた荒木氏が、偶々松江市の聯隊へ入営したので、日曜祭日等一般の兵卒が外出を許さるゝ時は外出して、土地の同志を訪問して、軍務に差支へない限り運動の手傳へをしようとしたに過ぎない事件であつて、別に問題に為りそうな事件の如くには思はれない。

仮りに神戸で柔道撃剣に凝つて居たものが、偶々松江の聯隊へ入隊した際、の土地の撃剣道場に出入したからと云ふて何にも問題に為らう筈が無い、日曜祭日等の軍務に差支へない一般の外出日に外出して、柔道撃剣の師範でもしたら却て賞揚したに違ひは無い。隊に這入つたものは他の団体に加入してはイケナイと云ふ事は無い、故に此度の事件は、現役軍人の荒木氏が加入した『政研』なる法律上の性質如何、即ち『政研』は治安警察法に所謂政治結社なりや否やに依つて、問題の総てが解決せられるのである。政研が政治結社だと云ふ事に為れば、現役の軍人として政治結社に加入した荒木氏、及び又、未成年者を政治結社に加入せしめた政研支部責任者は、高くて二十圓の罰金を取られるであらう、けれども、私の見る処では、政研は治安警察法に所謂政治結社では無い、政研を政治結社だと考へて居る地方では、支部が出来ると直ぐに届出をしなければならないと云つて来るそうである、と同時に、届出なければ秘密結社として検挙するぞと脅かす処もあるらしい、けれども、秘密結社と政治結社とは、自ら結社の組織を異にして居る、秘密結社には非政治結社もあれば、政治結社もあるが、公然の結社には届出を要するのと要しないのがある。言ひ換へれば、秘密結社は政治的のものも非政治的のものも罰せられるが、公然結社でも政治的のものは届出をしなければ罰せられるが、届出をして居れば罰せられないのである、故に政研支部を届出なければ秘密結社として扱ふなど、云ふ事は、とんでもない間違ひである、と同時に政治に関する結社の総てが、治警第五條に所謂政治結社なりと考ふるが如きも亦、とんでも無い間違ひである。最も適明な説例は、婦人参政権同盟の如きは、其の目的から云ふても、其の運動から云ふても、政治に関する団体である事は、何人と云へども之を疑ふものはあるまい、けれども、未だ曾て婦人参政同盟の如き団結を選するに、政治結社を以てしたものは無い。更に之を他の説例に求むれば普選通過前の普選期成同盟の如きも、亦、其の目的は勿論其の運動方法等、帝国政治に関して居る関係を以て直に政治結社なりとは云はなかつた。夫れは婦人参政や普選期成等を目的とする団体は、素より政治に関する団体ではあるが、また直接に法律必然の構成に係る政治機関に参与する事を目的として居るものでは無いからである。政研は勿論公然の団体ではあるが、政治結社なれば届出を要するし、又未成年者、軍人、婦人等の加入が出来ない事になるのであるか、政策では無い要するに政策の事である、政策と云ふものは、現行法律に準拠して構成せらるゝ政治機関の運用に、直接参与する事を目的とする用件である。例へば市町村会、府県会、衆議院等、現行法律に準拠して構成せられた政治機関に、議員を出して其の運用に直接参与する事を目的とする選挙団体が政策だと云つて良からう、處が政研は未だそうした政策では無いから、決して政治結社だとは云へない、『政研』の目的に関する法律上の考察は、単り此度の事件に就てでばかりで無く『政研』今後の発展上、官憲当局[illegible]一の解[illegible]備ふる為め、いづれ別の機会に詳

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

論ずるであらうが『政研』が治警第五條に所謂政治結社で無い限り之に加入した現役軍人も無罪なれば、未成年者の政研加入を勸誘したものも無罪であつて、其の檢擧や家宅捜索は立派な人權蹂躪である、が、萬一の所罰を受くるとしても治警に依る最高罰金二十圓の事件だから、左程騒ぐにも及ばないと考へる。（完）

無産青年に與ふ

—特に朝鮮青年の爲に—

權 炳 吉

人類の歴史は、無限の進化である。だから人間は生れながら闘爭力と反抗力を持つてゐる其して其の熱烈なる闘爭力と、……によつて生を維持し生の擴張を求め得るのである

もし、人間として生れて闘爭力と……失つたとすれば其の瞬間より生命を失つたことと同一なる事實に歸結するであらうだから人間は不斷の闘爭と……、……

此の點から直叫すれば人類の過去史は悲慘なる闘爭の記録であるけれども今や展開されんとする處の人類の歴史は痛快な闘爭の記録であらねばならぬ其れは未來は民衆の世界であるからである

さて無産青年諸君階級意識と明晰な頭腦を持つてゐる勇敢なる無産青年諸君私は今諸君にこう云ひたいのだ不合理な現實とすべての、此れこそ青年諸君の生を腐ば窒息あらしめるものである其して青年と云ふ尊い價値も實は此處にあるのである時代の先驅者となつて時代の爲に燃え上る熱血を有らん限り惜みなく大衆の前に注ぐ時こそ青年の眞の生命が活躍する時であり又青年の眞價を發露する處であるだから青年は未來の爲に生きらねばならぬ此れこそ青年の誇るべき特性であり社會進化の原動力である

にろ

天神の槓杆であるからである青年は常に社會改造の先鋒に立つて勇敢なる斥候兵になるからである其して社會は常に進化し青年は常に社會の爲に努力する此處に於て青年と社會は相離るべからざる關係があり青年の價値も青年の意義も力強く根ざすものである

若しも或る社會より青年の力を奪ひ去れば其の社會は如何なるだらう否其の社會は寧ろ滅亡してるも青年の力は青年の胸に輝く燃ゆる熱血は離すまいだらう其れは其の社會の運命であるからである青年の力は其の數の多少に依つて其の社會の運命を結定するからであるだから青年は社會の中樞である社會と運命を共にしなければならぬ責任を持つて居る社會の中樞である

然し青年の社會に對する責任は消極的方面にのみ有るのでなく積極的方面に上り以上の其の眞の意義があるのであるだから青年は社會の進化の元素であらねばならぬ殊に極惡なる資本主義社會の崩壞期に於ける青年諸君の歴史的使命は重大なものである其れは青年諸君の腕次第に依つて社會の進化を左右するからであるだから青年はじみどろになつた場面に出演する壯快な役者であらねばならぬ其して……

「其して其の燃え—

五月十日夕べに

衝動論

宮 城 潮 作

（一）

昨今政治問題の喧傳さるゝに及んで我國無産階級の闘爭精神は漸く散々伍々、彼の戰國史上の群雄割據の如く、混沌として黨派形式に及ばんとしてゐる姿がマザ〳〵見せつけられる。大別して政治的行動容認派と否容派の二大潮流が相交錯し、不祥の渦は至る處に卷き起らんとしてゐる、而して兩派とも大衆乘取に腐心の全力を傾注するの結果手段の爲めには目的を選ばずてその卑屈醜状、筆舌に忍びざる幾多の事實をば無垢の大衆の眼前に晒け出す迄でに闘爭は露骨化して來た、此の內的闘爭の所齎は、支配階級、政治容認派否容派の三角關係の渦中に大衆をば投入したる爲め、濁水滔々として澱物は流れ、遂ひに水は腐敗し、自然の結果として、ボーフラは繁殖し始めた、即ち八方美人を振り廻す妖婦的運動屋目前の小利を指して無産者を誘惑せうとする奴、同志討ちをして共倒れとなる大馬鹿者、吾等は停滯の難局を切り開くの焦眉の急を告ぐるの秋を迎へた

（二）

斯くの如き状態を來したる原因として、無産階級の二大潮流の勢力が相伯仲し、之に支配階級の操縱巧妙なる點を吾等は擧げんとする。されば無産二潮流の何れか一方に向つて、破壞作業をば施し、壓力を他方へ移動せしむれば、流勢の方向は一定見を持つに至るであらう。大噴火の兆候として地熱又は震動の豫備行動あるは自然の理である。革命の前提として、衝動の刹那を造らんとす又徒勞にあらずだ、彼の大衆化本位と稱する鈍重潮流に對して、白熱的迫鋒を注入する事が必要だ、聰明なる者の偽看板を掲げて、成すべき術策も知らず、支配、被支配の中間に蠢動して現代社會組織の不合理をば改良制化の鈍刀に委せんとする横着物、若し汝等に大衆教導の確的方針あらば堂々として支配階級に直面して見よ、此頃の無産者運動の意氣は何事だ、自由勞働者を內務省の木ッ端役人に平頭低身せしめたり、折角の組織勞働者をして、『階級と戰へ、人と戰ふべからず』などと人格者振りを發揮したり、實に吾等は四面楚歌、秋風落日の嘆に堪へない、吾等は衝動の實現化を期せざるべからずだ、政治行動是認に對する超的意見の實行、政治行動否認に對する積極的的をの確證表示の促進！ かくてこそ其の存立の意義は大衆化するのである。

（三）

吾等は此の窮呼の生きたる實驗を玩味したい、それは彼の伊太利現代の社會舞臺の情勢である、彼のファンシスチ黨が所謂黑シャツ組を組織して首府ローマに侵入し、暴力行爲を敢行して時の政權を掌握し、ムッソリーニ獨裁を斷行なしたる二十世紀の奇蹟的順路に立つの止むなきに至つた伊太利の民衆はその獨斷專令をば甘受し、此の溢政を攻擊論難せんとしたる社會黨に向つて反つて楯をつきたるあの現象を考ふる時、ファシスチ黨の政略に敬服措く能はずである。ファシスチ黨の黑シャツ組組織たる大衆運動政策が如何に時勢を適應したるかが明々白々と內藏に浸潤するを覺える。然るに斯くも周密なる政策に俄然破綻の秋が來た、それは社會黨員アコモ・マテオッチ暗殺事件であつた、兇手の那邊にありたるかは時の裁判官さへ確證を得なかつたが、マテオッチ代議士がタイバー河畔を步行する折柄四人の壯士が自動車內へ彼を拉致し去りて後、幾日ならずして暗殺の悽慘劇がローマ全市に喧傳さるゝに及んで、流石のムッソリーニ首相の身邊も踵を返すが如く果敢なき運命に向ひつゝある。伊太利社會黨が過去に於て鈍重の氣風より覺醒せりとするならば早生のマテオッチのなかつた事を悔悟して居るであらう、苟も大衆化を實現せんとならば、其の最善の策として首尾一貫したる衝動の階段を辿らなければ、如何に高遠の理想と、熱意をば大衆に理解せしめようとしたとて、二階から目藥の例へに漏れないであらう。此の意味に於て現今の我が國勞働運動乃至社會運動家に望む一事は八方美人的愚策を排して、無產階級暗鬪の焦點たる二大潮流交錯の何れにか破壞作業を斷行する事が我殿等が大衆化策の唯一の道ではなからうか。（おはり）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

人間的ならざるべからず

小川未明

　眞理のためにといふことも、人間の生活から離れては、全く意味のないことであらうと思はれます。

　たとへば、こゝに眞實な科學者があるとする。その人の研究は、直接には、この社會の事物についての研究ではなく、自然界のものであつたとする。そして、その人は、自己の研究するものに沒頭して、他を顧みる遑がなかつたとしたら、その人は、社會意識を有しなかつたといふために、批難さるべきものであらうか？かうした疑問の起るのは、當然なことであります。

　社會の一員にして、その社會に對する意識を有しないといふことはいかなる立場にたとへその人が立つてゐやうと、決して、いゝと言はるゝべきことではありません。しかし、今日の如く、社會の文明が、分化によつて綜成され促進されつゝあるからは、たゞその人の生活の形の上だけでは、判ずることができないのです。その人が、單に、機械の役目をする以外の何ものでない限りは、その人には、良心があると言はなければならない。即ち、眞理の研究は、自己の興味の追窮でもなければ、また、趣味の問題でもない。よし、そこには、趣味性や、興味感は、もとより伴つてはゐても、それが終極の目的でなく、要は、眞理の研究によつて、未知の世界を開拓してこれを人生に知らしむべきことです。人生に、それを知らしむるいこと丈けで、ある科學者の責任は、果たされてゐます。

　ある一人は、耕し、ある一人は種を蒔き、ある一人は、それを苅り、他の一人はそれを精製するだけで、各々の任務は果されると言はなければなりません。どの任務を最も重しといふ事はできない。時によつて、その一つが最も困難な仕事と見える時はあつても他の時には、それよりも異つた役目に困難の見出されることもありませう。各々の天分の存するところに從つて、適所に、其人は、部署を置いてゐるとも言はれるのであります。

　たゞ、私達は、人生の仕事を有意義ならしめんがために、眞理を愛好し、眞理に到達すべく、科學を尊重しつゝあるとはいへ、科學によつてのみ、眞理への道が開かれるといふがために、科學のための科學を善いとは言ふことができない。言び換へれば、人間の生活進步をはからんとすることを忘れて、科學の價値を悟ることができない。況んや、科學を重視して、人間を卑しむが如き、誤れる事實に對しては。これを默過することができないのです。

　科學者が、社會の一員として、協同の精神を有するものにして、はじめて彼等の超世間的の態度は許されるのであります。

　社會運動は、科學の精神に從つて、行動しなければならぬとしても、決して、科學のための運動ではない。所詮は、人間のための運動であります。階級鬪爭は、人間と人間の爭ひには、ちがひないけれど、これは階級の撤廢と共に終熄すべきものです。そして、どこにも、人間相殺の正しいといふことは許されてゐません。

　また。いかなる場合に於ても、もし、これが正しい狀態に置かれて、その間に、誤解がなかつたなら、人間同志は、決して、相爭ふべき筈のものではない。すべての研究と、運動も、誤れる狀態を、この正しい狀態に置かんとし、そして人生を爭鬪から救ひ、平和たらしめんがために生起したものであります。もし、この精神からでなかつたなら、私達は、それ等の研究や、運動に對して、全く、社會的の價値がなきものとして排斥するに躊躇しないでありませう。

　あらゆる意味に於て、私達は、人間的であらねばならない。人間的であるといふことだけが私達をして勇氣づけ、感激せしめずには置きません。正直であり、誠實であり、相互に親愛しその間に虛僞を持たないといふことだけが、人間的である所以であつて、こゝに於てのみすべての運動の精神は、生彩ありと言はれるのです。

　私達は、決して、機械そのものたることを滿足するものでなければ、またかゝる信仰を持つことが正しいとも思はないのである。たとへ、自ら進んで、機械の如き、一つの職責に甘んじたとしても、それは、自由の精神から、社會のために、人生のために、それを選んだものでなければならない。

　何にあつても、組織にいふことは必要です。しかし、それを形造るに至つた精神は、それ以上に、最も必要です。そして、たゞ、人間的であるといふ、極めて漠然ではあるが、しかし、よくその意味は、直に何人にもうなづかれる、この現心こそはすべての人にとつて、たとへば科學者にも、藝術家にも、詩人にも、勞働者にも、また、社會運動家にもなければならぬものです。それ等のすべての中でも、殊に、社會運動家に、最もなければならぬと思ひます。もし科學的眞理のために、人間性を無視する傾向があつたら、その傾向を排さなければならないと思ふ。

（完）

永田繁澄

一四・六・二）

仕事部屋から

◆◆◆

江馬修

ベートーヴェンが偉大な音樂家である事は誰しも知つてゐる。しかし彼が熱心な民主主義者であつたことを知るものは割合に少いやうである。

もとより彼は作曲家であつたから、彼の抱懷する民主主義について纏まつた主張なり論文なりを書き殘してゐる譯ではない。また社會主義者の運動に參加してゐた譯でもない。（これについては彼は十九世紀の初頭にオーストリアに生きてゐた人であり、ナポレオンの戰亂の渦卷と、メッテルニッヒの壓政のもとに生活してゐた人である事を充分考慮に入れて見なければならぬ）それにも係はらず、彼の言葉の斷片、生活の逸話、また何よりもその藝術から推して、ベートーヴェンが立派な民主主義者であつたことが容易に證立てられるのである。

だからこそ、今から數年前、ベートーヴェンの誕生百五十年にあたつて、フランスがドイツに對するあくなき憎惡からその記念祭さへ催さうとしなかつた時、フランスの社會主義者たちが率先してこの偉大なる音樂家、貧しきものゝ最も力づよい友のために心からの音樂祭を行ふたのである。――そしてこれはブールジョアの一般的な盛大な祝祭にもまして、ベートーヴェンにとつてどんなにふさはしく、美しいものであつたらう！

ベートーヴェンの『月光曲』と云へば、日本ではもつとも一般的に知られてゐる。同時にこの『月光曲』に關するあの美しい物語、ベートーヴェンと盲目の少女との物語も一般にひろく傳へられてゐる。僕なぞは英語の勉強がてらナショナル・リーダーの五の卷でこれを讀んだものであるが、今では小學讀本にも抄譯されてのつてゐるので、十三四の小學生までよく知つてゐるに違ひない。

あゝ、僕が少年時代に初めてこの物語をよんだ時のやさしい情緒と深い感激とをどうして忘れ得やう！その時以來ベートーヴェンは僕の内部の最も力づよい指導者となつてしまつた。（もし不幸にしてこの物語を知らない人があつたら、是非讀んで御覽なさい。）今では僕はこの物語の眞僞について多少の疑問が殘されてをり、偉人の生涯にありがちな創作された傳説であらうと云はれてゐることを知つてゐる。いつかもこの事を或名のある女流教育家に話したところ、その婦人はいかにもがつかりしたやうな顏付をして、

『でも、あんな美しい話をつくり事だなんて云ひたくありませんね。どこまでも事實として語り傳へて行きたいですね。』と云つた。

僕も或點まではこの言葉に同感する。しかし、これについては僕たちは安心していゝと思ふ。なぜなら、この物語はたとへ傳説的に創作されたものであるにしても、こゝには貧しい不幸なものに對するベートーヴェンの眞實の感情と同情とが極めてはつきりと描き出されてゐるからである。この創作者はかなり深くベートーヴェンの憐れみ深い犧牲的な心情を理解してゐたに違ひないし、隨つて假空的な物語であるにしてもそれはなほ確に眞實なものであると僕は信じてゐる。

人も知るとほりベートーヴェンはボンのみじめた屋根裏に生れた。そして並ならぬ不幸と貧賤の中に生ひ育つたところの、それこそはえ拔きの無産者だつた。隨つて若いうちから彼の心はおのづと「貧しいもの」に引きつけられて行つた。自分自身天才ある作曲家としての榮途にのぼりながら、その兄弟である不幸な貧しいものゝ事を決して忘れなかつた。

彼が親友エゲラーへあてた手紙の一節にもこんな言葉が見出される。

『例へば、僕の友だちが困つてゐるとする。そしてもし僕の財布の都合ですぐその友だちを助ける事ができないとしたら、僕は仕事机に向ふだけの事だ。ちよつとしたら、僕はうまく片をつけてしまふ。君、何と素敵な事ぢやないか。』

そして彼はまたかう書きつけた

『自分の藝術は貧しきものゝために捧げられなければならぬ。』

これに類した言葉は外にまだいくつか拾ひあげる事ができる。彼は自身生涯にわたつて殆んど無産者として貧苦な生活をつゞけ人間が負ひ得るほどのあらゆる不幸とみじめさを嘗めつくしたベートーヴェンはその藝術によつて自己を解放すると同時に、あらゆる貧しい不幸な人々をそれから解放しやうと努力した。そして後になつて彼はつひにかう云ふ事ができたのである。

『眞に自分の藝術を理解するものは、あらゆる不幸とみじめさから救はれる事ができる。』

彼は壯年時代に於いて、一時ナポレオンに心醉した。そのためにあの有名な『英雄交響樂』を彼に捧げやうとした程だつた。しかしさういふ彼はナポレオンに於いて普通選擧をして民主的な政治を行ひ、ヨーロッパに眞の自由をもたらす救ひ主を見たと思つたからだつた。それでナポレオンが皇帝になるのを見、彼もまたたゞの暴君たるにすぎないのを知るや否やこれまでの崇拜は烈しい侮蔑と變つた。そして『英雄交響樂』の捧げ言葉を裂きすてた。

メッテルニッヒの強壓政治の下ではベートーヴェは絶えず忌憚なくその非を鳴らして、友だちをはら〳〵させた。政治に於て彼の求めるものは、『何よりも自由』だつたのだ。彼はドイツ人でありながら、革命的な『パリの市民』だつたシルレルの熱愛者だつたことを忘れてはならない。

ベートーブェンの國際主義的な精神は左の言葉の中にも明かに看

取される。これは同時代の音樂家ケルビーニへあてた手紙の中に特にフランス語で記されてゐる。

『藝術は全世界を結合させる』。

この場合、これから引出される思想は藝術的國際主義と呼ばれるかも知れないしかしベートーヴェンの眞の社會理想を知らんとするものは、何よりもあの『第九シンフォニー』を研究しなければならない。こゝでは眞理を求めて苦鬪する精神、自由へのあこがれそれから同胞の愛によつて相互に手を握り合つゝ偉大なる理想へと邁進する人類のドラマが實に力づよく表現されてゐる。しかし今は紙面が制限されてゐるのでこれについて委しく書いてゐる事ができない

もとよりベートーヴェンは偉大なるドイツ理想主義の代表者である隨つて彼の民主主義や自由主義國際主義やを現代の社會主義の規範に押しはめる事はできない。しかしベートーヴェンがマルキストで無いからと云つて、誰か非難しやうとするか。マルクスよりもずつと以前に生れ、暗い時代の制約の下にあつたにしても、彼のあくまで眞を求め、自由にあこがれた巨大な苦鬪の精神は永久に僕たちのものである。いや永久に未來にかけて來る可き新しき世界を照明すべき大燈臺となるものである。

ナポレオン戰爭の空氣の中に生活したベートーヴェンはかう云つた。

『軍人が劍によつて生活する如く自分はペンによつて生活する。』

しかし彼がもし現代に生きてゐたならば、恐らくはこんな風に云つたであらう。

『勞働者が鍬や槌によつて生活する如く、自分はペンによつて生活する。』

―六月十五日―

嘆息數篇

月給取と良心

社會運動は墮落した、確に墮落した、そして其ドン底にあるのだ月給をもらうから運動する、此月給をもらはねば運動家でないといはれる樣になつた、社會運動が生活化する事はいゝ事であらうか、職業的ブローカーは魂がない、それが二百以上も居る、有名な主義者、勞働組合、農民組合の幹部と水平社にもあるそうだ、貧乏は人を墮落せしむる、或關西第一の男らしい男、○○○は遂に刷新派たる社會運動の成金である閥賊に買はれて行つた、十年の苦節も犬畜と同じことになつた、先達は閥賊の横暴を憤つて居つたのに近頃は閥の犬となり生活に困らぬやうになり得々として居た、が或人に遇つた時、顏を赤くして下をむいて一言の挨拶も出來なかつた惡い事は出來ない、買られた勞働者は責めないかも知れぬが自己の良心が責める。

製本屋の小僧

外國雜誌を見ると『マルクス主義が十萬部發行されて居る』とある、又ヤマカン式宣傳であらう、昨年赤瀾會の七八人を千何百人とか宣傳した類であらう、あんな外國雜誌の切り拔きが賣れると思はれぬ、製本屋の小僧曰く、千部か千五百部ですと、小僧君はブローカーにあらずウソは云はぬ。

閥の買收

社會運動の成金である閥は金はうなる程ある、組合幹部を買收するは公然の事實で何人も疑はぬ事である、中には有名な人で僅二十圓か三十六圓で買はれた男があるそうだ、雜誌を三號續けると毎月百圓補助するそうだ。

閥の機關

マルクス主義、青年運動は閥の官報である、發行物は無盡藏であるから無代配布してもらひたい、本家からと勞働者からと二重取するからブローカーと云はれるのだ

斷じて不可

月給取職業的運動家の殖へるは運動が眞劍にならぬ、ブローカーは斷じて不可、吾等は此の故に閥を撤底的に糾彈し其滅亡を期する

山口　正義

□かなしき眸

大山勝襲

かなしさに堪へで默せり
やつれたる母の老眸に
なみだ光れば

○

病みてゐて
はほ働かむとわが云へる
言葉かなしか母の答へず

○

大いなる
希望に充てる處女等は
われの言葉を哀れと云へり

○

痩せ細れる腕を撫でつゝ
シミジミと
こゝろ弱りし我を知るかな

○

命は他人――
誰の云ひつる言葉かな
時々母と兄の爭かふ

病癒えず
こゝろ荒げるこの頃は
たゞ大いなる破滅をもとめき

○

働かずして
飯を食ふ氣まづさは
その時々のわれのかなしみ

○

病める身をもて仕事を
求むるを蔑みし男
彼を忘れず

○

死ぬことの
われには難かしひやゝかな
刀をみつめて寂しく默す

○

目覺むれば
またかなしみは深かりき
物狂ほしく今日もくもれり

祖國なしと云ひたる友よ
シミジミと
われもこの頃然りと思ふ

○

友もまた癒えず
憐みて死に來ぬと
云ひひて來れりわれのごとくに

○

病める身のこのかなしさよ
戀もなくまた徒らに
春は過ぎけり

○

禁斷の酒また呷りぬ
いたましきなやみに堪へで
醉ひもせざるに

○

無邪氣なる兵卒等の顏
將校の險ある眼
街の行軍

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新刊紹介

◆社會學通俗教科書（神永文三譯述）米國の社會學者ギッヂングスの小著『エレメント・オブ・ソシオロヂー』の大要を抄譯譯述したもので一般に社會組織の基本形態を諒解せしめ社會的生活を可能にする思想や事情や德性を知らしめ社會から生ずる利益と有用な社會成員として必要な行爲を知らしむにあるといふ極めて實際的見地から斯學の性質內容とその考究問題とを要說してある新學說大系の第八卷――東京牛込矢來町新潮社（一圓二十錢）

◆勞農露國革命憲法論（上村進著）著者の云ふ如く『資本尊重貧命萬能の社會は人類多數の階級に對して幸福を齎らし得る唯一の組織であるとは云へない』のである既に日本もロシヤを知ることの急務は云ふまでもない革命以後今日までの指導原理――革命憲法――をしる事は尙更に急務中の急務である本書はこの憲法を逐條懇切に註釋してゐる特に吾國の憲法や制度と比較對照してゐるのが何よりも嬉しい（定價一圓八十錢神田仲猿樂町三賀閣）

◆電車ストライキ（桑田次郎編）桑田次郎氏は今某大學に在り熱心に社會問題を研究せられつゝあり特に斯界の權威者として嘱目するに足る人でもある本書も白數出版をされて廣く社會へ撒さんとしられる特殊家である大正十三年夏大阪市電罷業事件の經過顚末を勞働組合の立場から詳細に記した記錄である社會問題勞働問題に關與する總ての人達に深大な參考を與へずには措かぬ（定價二圓京橋區銀座弓町一番地クラルテ社）

◆農民運動の現在及將來（小野武夫著）我國の農村問題は廣く解すれば國家社會全體の大問題であるが本書は小作制度小作組合等に就いて述べ農民問題の未來に就いて論じてゐる記述頗る平易簡明（定價一圓六十錢小石川區表町日本學術普及會）

反逆情史

勞働年鑑

◆勞働年鑑と云ふものの實は編輯者自身の自家廣告に過ぎぬ吾國は組合は他に幾つもある、單に自分の事計り掲載して勞働年鑑と稱するは潜越である、此書は例のダン爵石本玉吉等の出資に依る産業調査所と稱する華族やブローカーの集團から出版されたものである、內容は不正確誇張した所多く、數字も間違つて居る、價は二圓は甚だ高い、五十錢位が相當である、勞働年鑑は同人社發行の大原研究所調査の日本勞働年鑑はあらゆる勞働問題の調査を發表し、記事正確材料豐富である、研究家は殊に勞働運動に從ふ者は其貧乏なる財布をはたけて備ゑてはならぬ

編輯だより

お詫び

◆いろんな事情で讀者諸君の滿足に添ふ樣な編輯が出來なかつたことを先づお侘して、次に引越しや其の他いろ〳〵の事情でとう〳〵今月は後れてしまつたことをお侘しなければならない。それは兎も角後れ走せながら今日御覽の通りの雜誌が此の樣に出來ました。

◆原稿の掲載出來なかつた分もあつて、御送り下さつた諸兄にはまことに濟まないと思ひますが、限りある紙面のことで、どうもいたし方ありませんでしたがこんな事にはこりずに今後どし〳〵御寄稿の程をお願ひします。

熱さや、迫害に閉口せず、炎天の下で、足を地の下に、眼を天の方に向けて、グン〳〵茂つて行きませう。今夏の御健鬪を祈る。

（編輯小伯）

大阪市北區西野田江成町
勞働者新聞社
半月刊 勞働者新聞
日本勞働總同盟
關西同盟會機關紙
（一部五錢）

「進め」讀者法律顧問
赤坂表町一丁目一番地（辨慶橋前）
辯護士 辨理士 法學士 久保山武雄
電話 赤坂五〇五四番

新聞雜誌其他の印刷
東京芝區新堀田町十九
自由活版所
所長 岡千代彥

旬刊大阪府南河內郡長野町下古野
解放新聞社
旬刊 解放新聞
（一部參錢）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

尖端

創刊號

◇毎月一回一日發行◇

◇一部拾錢◇

東京府下上目黒宮下四二八

整頓社

振替東京七一五〇五番

社會主義　農村問題

勞働問題　婦人問題

（目錄進呈）

——圖書販賣——

街頭社

大阪市東淀川區南濱町二二〇

露西亞大革命史

東京小石川區林町五七番地　朝香屋書店　電話小石川一六三八番

山川亮著短篇選集

決鬪

四六版二百四十頁◆箱入極美裝
定價一圓八十錢◆書留送料廿錢

十五年の間に書き溜めたものゝ裡から嚴選に嚴選をして漸く出來ました著者はこの書を自信を以て讀者にお勸めいたします。これは決して時間の無駄潰しにも金錢の浪費にも、ならないことを確信します。これは勿論無產階級の『米の飯』だとは申しませんか。少くとも茶菓子であるとは信じてゐます。著者はこの書でシカツメらしく小理窟を述べるのではありません。寢轉んで、または樂々と膝を崩して無產階級の諸君と握手しやうと思ふのであります。內容は悉く一粒選の作八篇文藝年鑑子ををして―これだけの作は容易に飛び出るものではない。今日每月發表される文壇の愚作十篇を以てしても。この作一篇にも敵はない―と評されたもの。一圓八十錢では安いものです。

四紅社
東京府下池袋九九九
振替東京七〇六五九番

文藝戰線

―七月號內容―

△プロ文藝と論戰　新居格
△文藝の大衆化　佐野袈裟美
△ポール、モーラン　前田河廣一郎
△表現主義！　金子洋文
△三科に寄せて　松本弘二
△今東光氏の言葉　今東光
△仕事部屋から　江馬修
△新露研究二冊　武藤直治
△文藝と青年運動　岩崎一
△陳謝と廣告　小牧近江
△もう終つた　飯田徳太郎
△文壇的同志　今野賢三
△文藝春秋に告ぐ　內藤辰雄
△齒車と人間　岡下一郎
△答の下より起つ　中西伊之助

―定價二十錢、送料二錢―

東京市外雜司ヶ谷龜原五四
文藝戰線社
振替東京五九三八七番

◇社會主義
◇社會問題
◇勞働問題
◇婦人問題
◇圖書雜誌
◇パンフレット
◇リーフレット
◇藝術雜誌

新橋堂書店
大阪市此花區中江町
新橋南詰

仁丹

三越

進め社

販賣書籍目錄

◇御注文は必らず前金でねがひます
◇前金後三日以内に送本致します
◇引換、集金郵便等の御注文はお斷り

著者名	書名	定價	送料
カウツキー著 高畠素之譯	マルクス資本論解說		一七
ラツセル著 前田河廣一郎譯	ボルシエビーキの理論と實際	一・八〇	一〇
リプクネヒト著 新明正道譯	軍國主義論	二・五〇	一〇
カーカツプ著 內山賢次譯	英國勞働黨解說	二五・〇	一〇
ゾムバルト著 池田龍藏譯	社會主義及び社會運動	三・〇〇	一七
カーカツプ著 內山賢次譯	社會主義讀本	・七〇	二
リユイヌ著 高畠素之譯	社會主義社會學	二・五〇	一〇
リプクネヒト著 村上正雄譯	マルクスの逸話	一・三〇	六
ベーベル著 村上正雄譯	社會主義と婦人	・九〇	四
園谷弘著	我國資本家階級の發達	二・〇〇	八
ボグダノフ著 赤松克麿譯	經濟科學十二講	二・八〇	一七
高橋龜吉著	經濟學の實際智識	二・〇〇	一三
室伏高信著	社會主義批判	二・四〇	二〇

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

安住かとり線香

かとり線香は

安住が一番お奨めです！

大黒

栗オコシ

福オコシ

大阪あみだ池

香味さも他に優れたる

吉野川の鮎狩

大阪上六より吉野迄二時間十分

詳細は運輸課へ御照會下さい

大軌電車

和歌山行

南海電車

高野山行

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

The Su-su-me Socialists Monthly
HeAD office No.2.1 Sarugakuchyo KaNDa Tokyo.

石渡泰三郎著

歐米百貨店事情

四六版 二五八頁

定價一圓五十錢 送料十八錢

著者は白木屋呉服店の重役として現大阪支店長として其經營に卓拔の手腕を有し、最近更らに海外に遊びて其實情を詳察歸朝せる斯界の權威。
今其智識と經驗とを以て歐米百貨店事情を叙す。該博の智識よく歐米百貨店の經營、組織を解し、深甚の經驗よく百貨店の營業、生活の眞情表裏を盡して餘瀝なし。時に又閑を得て歐米名地及風物人情の眞味を描く。旅行案内記として亦好著たるを失はず。
百貨店研究者は勿論、廣く一般小賣業者並に歐米未見の諸賢に敢へて一讀を薦む

發行所 大阪、堺筋 白木屋呉服店

賣捌元 大阪 盛文館 賣捌、市内各書店及び神戸出張店

無産階級解放運動雜誌

解放思想	解放文藝	解放法律	再版解放
□無產階級解放思想の研究 □内外解放運動の報告批評。 □團體又は個人の意見消息。	□文藝によれる解放運動。 □解放運動に關する文藝。 □勞動者無名者の眞文藝。	□法律による解放運動、解放に關する法律裁判の研究報道論議。	思想版 文藝版 法律版

支社五則

一、支社經營は無產階級解放を志す者に限る。
二、支社の設置及廢止は解放雜誌に公告する。
三、支社本社間には思想經營運動に付き何等統制聯絡關係が無い。
四、支社は本社に集會及出版に關し特別の便宜盡力を請求し又は雜誌及書籍の大割引が請求出來る。
五、支社經營者は地名を冠して支社支部支局の名稱を自由に使用する事が出來る。但同一地方同一地名の支社は設從の日付に順序して番號を付ける。

△支社主任募集、詳細は照會を要す
△大部數の注文は特に大割引す
△七月末第一號發行

各版一冊 各十五錢 ／ 各誌共一部各卅錢宛・一年各三圓卅錢宛

各版一年 各一圓半 ／ 三誌一年分の注文者には書籍二圓呈上

東京芝新櫻田町十九 解放社 振替東京三六九四四

大正十二年一月三十日第三種郵便物認可 大正十四年七月一日發行 ◆毎月一回一日發行 ◆定價一部十錢(税五厘) 半年六十錢 一年一圓(税共) 發行所 東京市神田區猿樂町二ノ一(振替東京六九八三三) 進め社本部

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN